

日本タボス

平成**23**年**12**月**23**日



烏帽子岳の遠望

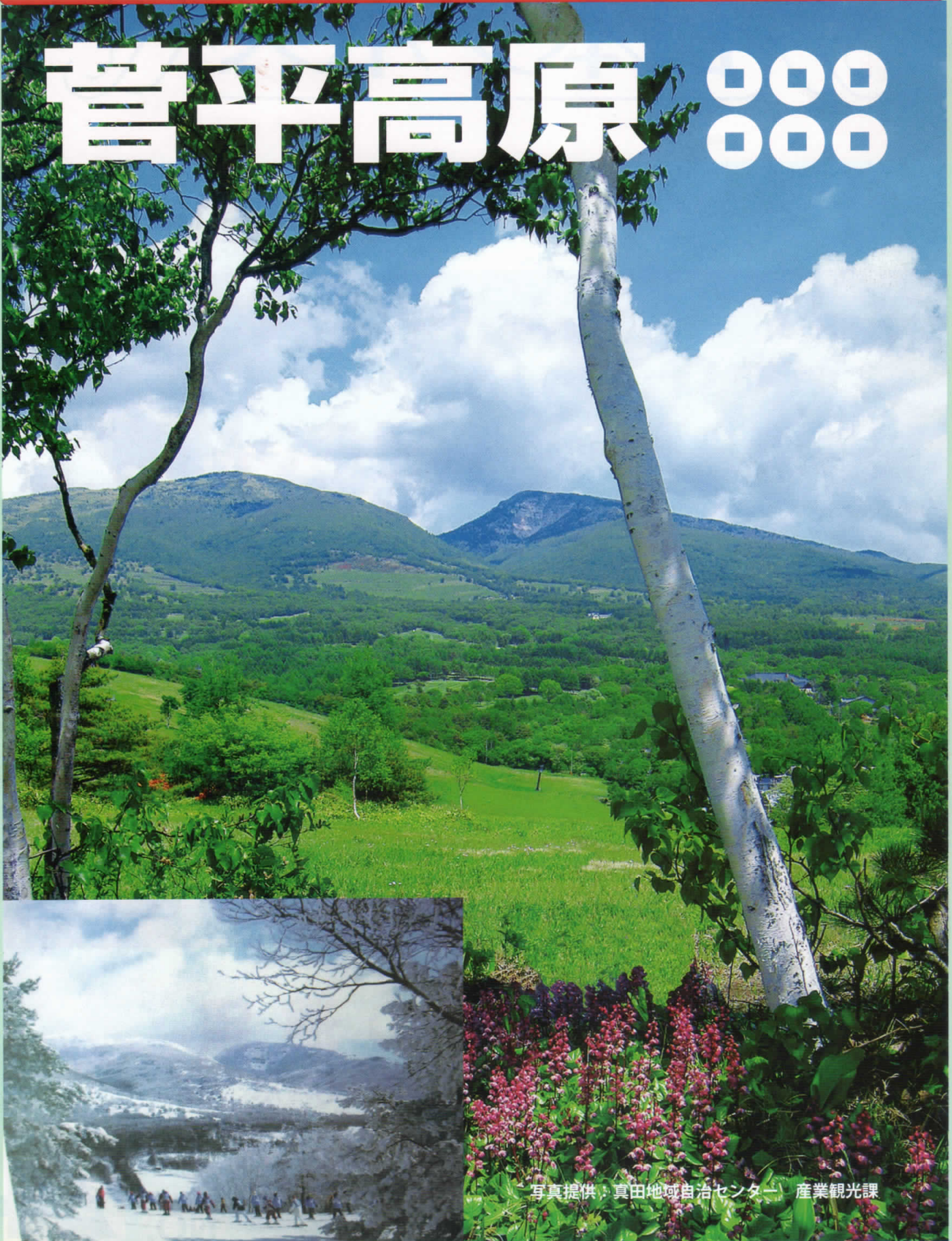
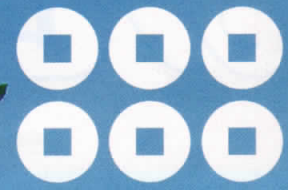
… ふるさとの実りの晩秋風景 …

写真提供：広報部 武捨衛人
撮 影：2009.10.9

NO. **24**

ふるさとのビューポイント①

菅平高原



写真提供：真田地域自治センター 産業観光課

も く じ

一	表紙(烏帽子岳遠望)	編集部	一
二	ふるさとのビューポイント①(菅平高原)	編集部	二
三	もくじ	編集部	三
四	ごあいさつ	会長(横沢出身)	山口 元彦
五	上田新時代への挑戦に向けて	上田市市長	母袋 創一
六	もう一度絆の大切さを思いながら	上田市議会議員	南波 清吾
七	魅力ある故郷づくりを	目指して	真田地域自治センター次長
八	真田氏で全国区に!	上田市議会事務局長	片山 久男
九	東日本大震災で思うこと	上田市議会議員	古市 順子
一〇	「東京真田町の会」の皆様へ	上田市議会議員	清水 俊治
一一	最後の戦友親睦会(昭和一七年兵)	顧問(中横道出身)	清水 清晴
一二	田舎暮らしの楽しみと苦しみ	大庭出身・宮の前在住	内海 宏光
一三	はじめての親睦旅行	横沢出身	倉島 義明
一四	故郷の仲間を旧職場へ誘う	萩出身	柳澤 實
一五	方言とお国訛り	副会長(横尾出身)	鈴木 邦子
一六	良き時代の思い出	理事(横尾出身)	花岡 孝雄
一七	楽しい家族旅行	顧問(大庭在住)	三井 芳郎
一八	第二四回定期総会・懇親会のご報告	理事(竹室出身)	古市 礼子
一九	各部の活動報告	各担当理事	堀内 政
二〇	ゴルフ関連話題	理事(横尾出身)	堀内 政
二一	会員の皆様の近況報告抜粋	事務局・編集部	二六
二二	会員消息・お知らせ等	事務局・編集部	二六
二三	ふるさとのコーナー	事務局・編集部	二六
二四	平成二十二年度決算報告書	事務局	二八
二五	平成二十三年事業計画	事務局	二八
二六	ふるさとで聴いたあんな歌・こんな唄	編集部	二九
二七	編集後記	編集部	三〇
二八	追加写真ページ	編集部	三四
二九	ふるさとのビューポイント②	編集部	三五
三〇	裏表紙(広告:真田不動産)	編集部	三六

の高騰などにより依然として予断を許さない状況です。引き続き情勢や実態を的確に把握し、対応に努めてまいります。

このような厳しい状況ではありませんが、5周年を迎えた新生上田市は、基盤固めの期間を経て、更なる高みを目指した成長・発展期を迎えており、「上田新時代」への挑戦に向け、第一次上田市総合計画「後期基本計画」の策定に取り組んでおります。ここに掲げた施策の着実な実行により、上田市が目指す生活快適都市の実現に向けて一層の取り組みを進めてまいります。

この7月には周辺5市町村と定住自立圏形成協定を締結いたしました。上田地域の将来を見据え、地域全体の発展を図るため、今後それぞれの市町村と連携し役割分担しながら、魅力あふれる上田地域定住自立圏を目指します。

上田地域において安心して子どもを産み育てられる環境の整備のため「上田市産院」を、婦人科外来の充実も含めて「上田市立産婦人科病院」とする移転新築工事は、来春の開院を目指して順調に進んでおります。

「文化の薫る創造都市」実現に向けた拠点施設として整備を進めております交流・文化施設整備につきましましては、市民説明会などいただいた御意見を参考に、基本設計から詳細な実施設計へと進んでおり、開館後の事業展開等も見据えて、文化

芸術振興施策や教育・生涯学習活動支援等の充実に取り組んでまいります。

7月には旧真田町からの姉妹都市であるスイス連邦ダヴォス市を新上田市として初めて表敬訪問し、国際会議が開催される会場施設や、スノーマシンのコントロールシステム、雪崩防止柵などを視察いたしました。今後の更なる交流の発展をお願いし、友好を深めて参りました。8月には恒例の真田まつりを行いました。今年は趣向を変え、郷土の誇りである真田三代のゆかりの地を周遊バスで繋ぎ、本城跡や長谷寺など5箇所それぞれイベントを催し、真田地域全体を楽しんでいただき大盛況でした。

真田幸村公のNHK大河ドラマ放映実現に向けて一昨年から取り組んでおります署名活動も、皆様の御協力により署名数六十万人に達し、大河ドラマ放映実現の機運が高まっております。

真田地域におきましても、今後「真田氏発祥の郷」を訪れる観光客のさらなる増加が期待されることから、真田地域の観光に関する環境整備をすすめているところです。

さて現在、私は長野県市長会長と全国市長会副会長を務めさせていただいております。地方自治体を取り巻く環境が著しい変化を迎えている中、国や県との円滑な連携により適切な対応が図れるよう任務を果たし、ひいては市政発展に繋がる

ものと努めてまいりたいと考えておりますので、皆様には故郷上田市を暖かく見守っていただき、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

もう一度絆の大切さを思いながら

上田市議会議長 南 波 清 吾



「日本ダボス」第二十四号の発行おめでとうございます。また、本年も上田市議会の議長として挨拶文を掲載させて頂く機会を頂戴いたしましたことに對しまして、御礼申し上げます。また、皆様方の日頃のご活動に對しまして謝意と敬意を表します。

本年は、忘れもしない三月十一日に東日本大震災が発生し、日本における観測史上最大のマグニチュード九・〇が記録され、非常に広範囲にわたる最悪の災害となりました。地震、津波による被害に加え原子力発電所の事故を伴い、放射性物質の外部放出が続いており、今だに収束しえない異常事態にあります。被災された皆様方に心よりお見

おわりに、会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げます。会報「日本ダボス」に寄せるあいさつと致します。

舞い申し上げますとともに一刻も早い復興を願うところであります。国及びすべての国民がわが身のこととして一体となり、最優先課題として物心両面で支援をしていかなければなりません。

上田市議会といたしましても、三ヶ月定例会本会議最終日の冒頭で黙祷を捧げますとともに、行政に對しては支援活動とともに改めて災害対策を再点検すること、市民の皆様方に対しては一人ひとりの被災地支援協力とあわせて日ごろから災害に強い地域の絆づくりをお願いし、国、県、市町村が一丸となり復興に向けた取り組みを推進していくことを求める『「東北地方太平洋沖地震」及び「長野県北部の地震」に對する被災見舞い、被災支援並びに上田市震災対策の推進に関する決議』を全会一致で可決しました。更に三月二十四日上田駅お城口において議員自ら街頭に立ち、市民の皆様へ支援を呼びかける被災者支援募金活動を行うとともにボラ

ンティアによる支援活動に多くの議員が被災地へ直接足を運びました。私も栄村、仙台市、亘理町などへ直ちに向向きお見舞い申し上げたところですが、今後も議会一丸となつてでき得る支援活動をしてまいる所存でございます。

今回の災害で考えさせられましたのは、まず、「想定外」という言葉はもうないということ、自然に対する畏敬の念の大切さ、普通に家族とともに住み慣れたふるさとで暮らせることの大切さ、ありがたさ、そして人と人、人と地域の絆の大切さであります。

こうした視点も持ちながら上田市を發展させていく使命を持つ議員、議会としてその重責を十分果たしていかなければならないことを肝に銘じ、議会機能強化特別委員会を設置するなどし議会改革にも取り組んでいます。

さて、ふるさと真田地域の概況ですが、昨年五月には、本原小学校プールの竣工、九月には、菅平地域の情報通信基盤整備事業が、十一月には、菅平大橋が竣工し、更に十一月には待望の真田図書館も立派に完成しオープンいたしました。この四月には、傍陽小学校改築の第一期工事も完了するなど目に見えて地域づくりが行われております。また、三月には、自治基本条例が制定され、まちづくりの基本理念も定まり、市民、議会、行政の一体となった取り組みが始まりました。

このほか、交流・文化施設の基本設計も完了し、いよいよ建設に向けて具体化してまいります。また、子育てしやすい環境づくりのまづ入り口として上田市産院が、来年三月末には新たに上田市立産婦人科病院として完成するまでに至っております。

どうぞ皆さん、これからも暖かい眼差しで郷土の發展を見守ってください。

グローバル経済化の下で、急激な円高の進行もあり、景気動向は依然として不透明でございます。しかしながら今までも、日本人は幾多の困難を自らの力で乗り越えてきたという実績がございます。

エネルギー政策の変換等により、多少の生活の不便さの共有やその先にはパラダイムシフトも予測されますが、幸せとは結局何か、そのために何をすべきかを考える機会とし、みんなで協力し合おうではありませんか。

いづれにいたしましても、地方の元気なくして日本の發展はありません。上田と東京を結ぶ大切な絆であります皆様方の忌憚のないご意見をお届けいただきたいと存じます。

この会報を通じ交流がさらに深まり、東京真田会が益々發展されまことを心からご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

魅力ある故郷づくりを目指して

真田地域自治センター次長 荒井 今朝信



今年初めて東京真田町の会に出席をさせて頂き、会員の皆様に大変お世話になり、楽しいひと時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

私も昨年まで4年間、真田地域教育事務所において、本原小学校のプール、真田図書館、傍陽小学校の改築等に携わらせていただきました。合併をして5年が経過し、真田地域の懸案であった事業も着実に執行されていることに対し、ありがたく思っています。

施設の利用状況でございますが、真田図書館には1日平均150人を超える利用者が来ており、真田地域の皆さんをはじめ上田地域の皆様にも利用され好評です。また、図書館サポーターの皆様のご協力もあり、市民協働による図書館運営が行なわれています。現在、図書館の周りもサポーターの皆さんにより、花が植えられとてもきれいです。

傍陽小学校も本校舎が完成し、子供たちの活気ある声が聞こえて参ります。現在第2期工事として旧校舎を取り壊し、廊下で特別棟とつなげる工事をしており、今年度末には完成をする計画で進めております。地域の方は大喜びです。

また、健康志向が高まる中、今年度の計画で真田運動公園の周りに、500メートルのランニングコースがありますが、2千万円をかけてシーズンオフに大規模改修をする計画になっております。

次に菅平高原の観光客・合宿等の入り込みの状況ですが、3月には震災の影響により2万泊を超えるキャンセルがあり、大変な状況でありましたが、5月には通常に戻り、夏には昨年を上回る入り込み客があり、安心したところでございます。

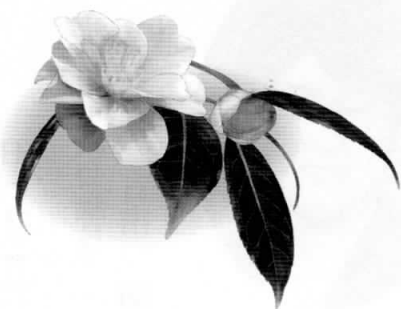
また、戦国武将ブームにあやかり、祝祭日には幸村夢工房で電動アシスト付自転車借りて史跡を訪れる皆様が増えております。現在、5台ありますが時によつては足りず、来年は少なくとも10台は準備したいと考えております。平成二六年NHK大河ドラマ放映に向けて、史跡を訪れる皆様に満足していただけるよう環境整備に努めて行きたい

と皆で智恵を出し合っているところとです。

また、公共交通関係ですが、路線バスが赤字となり存続が危ぶまれる中、真田地域公共交通利用促進協議会の準備会が立ち上がり、一〇月一九日には各種団体の皆さんに協力をしていただき、真田地域公共交通利用促進協議会設立総会が開催されることになりました。これから本格的に利用促進について話し合いが行なわれます。

最後に私事ですが、一月真田中学校の同級会が計画されており、東京からも同級生が参りますので、東京真田町の会へのお誘いをしたいと思っております。

東京真田町の会が山口会長を中心に益々発展することを祈念申し上げ、近況報告と致します。



眞田氏で

全国区に！

上田市議会事務局長

片山 久男



東京真田町の会の会報「日本のダボス」第二四号に寄稿させていただきました。ありがとうございます。

私はこの職場では三年目となりますが、これまで三回市ヶ谷に足を運び、議長や真田地域の議員、また副市長はじめ真田地域自治センター職員とともに総会・懇親会に参加させていただきました。

毎回、多くの会員の皆さんが参加され、故郷を遠く離れ、日々の生活を送る中で、故郷に熱き思いを寄せ様々な活動をされている皆さんが一堂に会し、「ふるさと真田」の話を会話が弾み、皆さんの心の深い絆強い結びつきを強く感じているところとです。

今、地元上田では「真田」で燃えに燃えています。

この九月十八日（土）には、真田幸村公NHK大河ドラマ放映の実

現を目指して日本一（ひのもとといち）の秋祭り「真田幸村公出陣ねぶた」が夕方から多くの市民が見守る中、開催されました。全高7.4m、4基の真田武者扇ねぶたが上田城下町を二、〇〇〇人を超える曳き手の曳行により繰り広げられました。

翌一九日（日）には、真夏を思わせる暑さの中、大震災の影響で延期されていた「第二九回上田真田まつり」が上田城跡公園陸上競技場、中心市街地、上田駅前お城口で開催され、陸上競技場での出陣の儀では、歓迎太鼓一〇人揃い打ち、真田鉄砲隊による上田城築城演武が勇壮に演じられ、関ヶ原の戦い直前の第二次上田合戦、「決戦！真田軍V・徳川軍」も再現されました。このほか、陸上競技場から中心市街地向う真田軍勝利行列、上田城櫓門前での「幸村なりきり隊コンテスト」など真田氏一色、お祭りムードいっぱいで大いに賑わったところです。

また、この一〇月二十九日（土）・三〇日（日）には恒例の「第一〇回真田幸村ロマンウォーク」が開催されますが、御屋敷公園、長谷寺、山家神社、千古の滝などを巡る「真田三代発祥の里コース（2.2km）」など5コースが設定され、今年も、戦国随一の武将と名高い真田氏発祥の郷、そんな英雄たちを育み、今なお歴史情緒があふれているこの地を真田氏に魅せられた市内外の多くウォーカーが参加することになっています。

「信州の上田？どこ？」と、東京での学生時代、友人からよく尋ねられ、「信州といえば、長野、松本、軽井沢が知られているよね。」と言われ、忸怩たる思いをしたものでした。そんな当時の無念な思いを・・・する時が来ようとしています。

二〇一四年（平成二六年）、真田幸村公が大阪城に入城してから四〇〇年を迎える記念すべき年に、是非NHK大河ドラマの実現を願い、目標の署名、六六六、六六六人にと一息、六〇万人を突破しました。来年が源平ものの「平清盛」、再来年が幕末・明治ものの「八重の桜」（元祖日本のナイチンゲール、新島襄の妻）、来るべき二〇一四年は戦国ものが指定席で、大いに期待できます。来年6月が勝負です。そして「真田氏で」全国区の上田を目指しましょう。



東日本大震災で

思うこと

上田市議会議員

古市 順子



東京真田町の会の皆様には、お元気で過ごさしのことと思います。5月の総会の折は大変お世話になりました。今年も楽しい一時を過ごさせていただきました。

真田町も秋本番を迎え、紅葉も美しくなってきました。あちこちで運動会が行われ、恒例の真田町一周駅伝大会も盛況でした。畑の野沢菜も大きくなり、これからは漬物など冬を迎える準備に忙しくなります。

今年はこちらは大きな災害もなく、いつもの風物詩ですが、東日本大震災の被災地では、冬の準備も大変だろうと胸が痛みます。私も7月に釜石市の仮設住宅で、多くのボランティアの方と青空市を開き、支援物資をお渡ししました。夏も大変そうでしたが、冬はもっと厳しいことでしょう。

大震災は私たちの日々の暮らしを見直すきっかけになりました。特に福島原発事故は、私たちに原子力発電の恐ろしさをまざまざと見せつけ、安全神話が崩れました。上田市でも多くの市民の不安の声に応え、空間放射線量の独自調査を始めました。現在各地域自治センターなど7ヶ所ですが、小中学校や保育園など観測地点を増やすことが求められます。また、長野県の周りにも多くの原発があり、防災計画を放射線被害も盛り込んだものにしていく必要があります。

近い将来、原子力発電に頼らない暮らしをめざしたいものです。太陽光、木質バイオマス、小水力など、自然エネルギーが注目されています。上田市もこれらの資源に恵まれていますので、どうやって活かしていくか課題となっています。

省エネも国民的テーマですが、地産地消、各家庭の生ごみ堆肥化、緑の力も十分で、田舎暮らしは省エネですね。

農業については、菅平高原では農地が不足し、真田地域・殿城地域にも出作が行われています。標高が低いため、少し早く出荷でき有利販売できます。また増えている遊休荒廃地解消に一役買っています。この頃は福島県や他県からも農地を求める方が訪れています。

大震災の影響は上田市の財政にも及び始めています。今年の当初予算で国の補助金を見込んで、耐震防

火槽を5基計画しましたが、すべてカットされ3基にしたとのことでした。これからますます、補助金や地方交付税が減らされることが予想されます。合併特例債も発行期限が5年間延長されました。特例債は大きく変わった自治体が地域間の地域格差を埋める施設整備などに充てる目的でつくられました。この際これから建設されようとしている交流・文化施設など、使い方を再検討する必要があると思います。

最後になりましたが、会員の皆様にはますますお元気で、ご活躍されますよう心からお祈り申し上げます。

「東京真田町の会」の皆様へ

上田市議会議員

清水 俊治



「東京真田町の会」の皆さま、五月二日の総会では大変お世話になりました。懐かしいみなさまと短

い時間の中でしたが語り合うことが出来ました。 さて、

新上田市が発足しまして早くも六年目を迎えることになりました。三月の東日本大震災、また長野県北部地震で国民の多くが気分的に打ちのめされた気分の中ですが、上田市にも色々な面で問題が起きております。

特に原発による放射能物質の問題で学校教育面で父母の不安に对应え空間測定をするために、測定器を購入し各小学校での空間測定を実施し、情報提供をしております。尚、夏休みに被災地の子供達や保護者の皆様に鹿教湯温泉にお招きをしたり、夏祭りの花火大会に栄村の子供さんたちをお招きもしました。

議会でも全議員による義捐金の街頭募金や、支援金を送金しました。又多くの議員が震災地に震災地に支援ボランティアとして入りました。次に議会関係について申し上げます。

(一) 三月議会におきまして、上田市の憲法ともいわれます「自治基本条例」が議決され施行されました。(二) 上田市産院が「信州うえだ医療センター(旧長野病院)」横へ現在建設中であります。(三) 交流、文化施設の建設構想が発表され、その基本設計にもとずいて、実施設計に歩みを進めております。

(四) 真田町関係について申し上げます。合併の懸案事項でありました「真田図書館」が立派に竣工し、

毎日の利用者も百名以上の事であります。また菅平JAに野菜専用の立体予冷庫が完成しました。生産農家から大変感謝されました。

耐震で問題のあった傍陽小学校も竣工し、旧校舎も夏休み中に解体されました。

(五) 総会の折に、副市長がお願いいたしました「幸村を大河ドラマ」に願う会の署名を持参して、NHKでも「真摯」に検討したいとの報告を受けました。

(六) 最後になりましたが、今年も「真田まつり」に「東京真田町の会」から山口元彦会長、理事の鈴木邦子さんにご出席いただき、盛大に実行されました。地域有志の皆様と真田町商工会、JAなど協力の下に、内容に色々のアイデアを凝らしてのすばらしい催物となりましたことをご報告申し上げ、皆々様の御健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

最後の戦友親睦会

(昭和一七年兵)

顧問 清水 清晴

(中横道出身)

去る四月二二日の靖国神社春季例大祭の当日、歩六二戦友会として十三名が式典の昇殿参拝を行ない、終了後アルカデア会館に於いて定

時総会を開催しました。

会員も一人減り二人減りし寂しくなり、一番下の方でも、八十八歳となるので、元気で歩くことの出来る間は、靖国神社、年二回の大祭には歩兵第六十二聯隊として昇殿参拝し我が部隊で、戦死、戦病死の九百七十三名の御霊の冥福を祈りましょう。会は来年3月で解散する。案が議決されました。戦友会の親睦旅行も今回で中止する、最後に富士見高原スキー場に沢山咲く、百合の花を皆で見えて最後の旅行にしよう、会長が日時行程などを全部引き受ける、元氣な方は是非参加して下さいとのことでした。



歩六二会の最後の親睦旅行会の日程表が五月上旬ころに手元に届きました。

七月二十日午後一時中央線小淵沢駅集合となっていたが、台風六号来襲で急遽中止となり、八月二日に変更、行程に変更なしの緊急連絡があり、当日私も老骨の鞭打って二日午前十一時新宿駅発特急あずさに乗車、車内で千葉県から参加の三名に出会う。

小淵沢駅前に着くと、長野市、岐阜、富山方面の二十一名の方達が見えておりましたが、挨拶もそこそこバスに乗り込みました。

バスは富士見高原ゆりの里へ直行入場、ひろい高原に咲く、赤黄色、濃紺など沢山の百合が目が奪われる。

展望リフトで標高千四百米へ、そこからジャリリ小路をはって登ること五十米、息も絶え絶えに五分ていど、見下ろす壮大な百合の花の景色に我を忘れる。

見学の後宿舎へ、佐久市から自ら運転してきた依田さん(八十八歳)にビックリ、同時刻ころ岡谷市から二名、全員集合。

午後六時より「歩六二会打ち上げ大会」と銘打ち開催、最初に戦死者、物故者、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈る一分間の黙祷を行い、続いて会長挨拶、参加者の自己紹介をした。御年九十三歳の方三名が出席してくださいました。

カラオケは歩兵第六十二聯隊歌

世界に比なき皇国に

栄え有る男子と

生まれ来て

一番二番合唱、その後は軍隊生活を思い出すうたばかり、宴会も午後九時に終わりました。

翌朝九時、八峯苑鹿の湯を出発し清里高原へ向かう途中八ヶ岳南麓高原有水群・野辺山JR最高地点清里清泉寮など見学し、八ヶ岳アウトレット近くの食堂にて、とろろそば

の会食、午後二時ころ小淵沢駅前広場で皆さんの健康を祈り万歳三唱して解散しました。

万歳三唱に通行中の人々
ビックリ、じろじろと
私たちの顔を見ていました。

昭和五十七年に創刊以来毎年一回発行して戦友との絆を深めて来た「東京六二会だより」第三十一号で今年の七月終わりました。何となく淋しさを感じます。

清泉寮



田舎暮らしの 楽しみと苦しみ

大庭出身・宮の前在住
内海 宏光



「東京真田町の会」の皆様大変ご無沙汰しております。(私は田舎に移りましたが、現在も上記の会員です)我が部落にも、十二月になると東京真田町の会会報が各戸配布されます。記事の内容はすべて眼を通して、会の活躍は如何に?また会員の近況は?誰がどんなお話を投稿したか等を大変楽しみにしております。

さて、私が故郷にユーターンしたのは、平成十六年の四月、まだ寒い季節でした。早いもので、もう七年になります。私は、高校を卒業して直ぐに上京、四十三年振りに故郷に移りました。六十一歳の四月です。移る十年前から、老後は田舎に帰り、晴耕雨読・花鳥風月の暮らしを頭に描き楽しみにしておりました。

幸いに、実家を継いだ兄と、東京に住んでいる兄にその旨相談したところ、「大庭部落は、午後には日が射さなくなるが、宮の前の畑は、(県道三十五号線沿いの、地藏峠に向かつて右側にある菅田足玉神社の横にある畑:百七十坪)日照時間が長く、夕方、東太郎山に日が沈むまで日が射しており、家を建てるにも、畑を耕すにも良い場所だに、しかし、冬場は地藏峠からの北風が強く寒い場所」との事でした。(確かに寒い場所、冬の早朝は、氷点下十度を超える日が多々あり、畑はカチカチの氷土で掘ろうとしても「みつまた」を撥ね返すほどです。毎朝の犬の散歩時、氷点下十五度になると、頬と耳は冷たくて痛いほどです。)

ありがたく貸して頂くこととなりました。新築の家は引越す年の三月に完成しており、四月に移りました。暦の上では春との事でしたが、まだ北風も強く凍みる日も多々あり、こたつ・ストーブは当たり前で、就眠時は電気毛布の御厄介になっていました。妻は千葉県育ち、余りの寒さに驚いておりました。

系統だてて、農業をした事はありませんでした。田舎暮らしを始めるに際しては、実家の兄と隣に住んでおられる山田先生(現在、真田町郷土史研究会の会長)に農業の「いろは」から教えて頂き今日まで勤しんでまいりました。

初めは単純に晴耕雨読・花鳥風月のゆったりした田舎暮らしを考え、ていまして、さにあらず、先ず最初に教えて頂いたことは「畑の春起こし」、それは大変でした。「宅地以外の百坪を耕すのです」。農家では何処の家でもこれが基本との事、私も数日掛かりスコップですべてを耕しました。畑じゅう、土の大きな塊りだらけ、力仕事で汗は首に巻いた手拭がビッシヨリになる程出て、メガネはくもり腰は痛く、夕方にはぶつ倒れそう、その作業を六十五歳まで春と晩秋(秋は特にシャベルで深く耕す)の二回、耐え苦しみやりましたが、寄る歳と共に足腰も衰え、気力も薄れ、翌年には耕耘機を購入しました。

機械を使用すると、百坪を耕すのに私でも2時間半で深く、柔らかに耕すことが出来、難なく終了です。今までの苦しみは何であつたのだろうか?

春起こしが終わるとそれからが大変です。春野菜用の床作りと作付・種蒔きが始まります。それが済むと「待っていました。」とばかりに雑草の群生が芽を出し押し寄せてき

ます。草かきで掻いても、掻いてもむしっても、ちよつと気を許すと草畑になります。

百姓の仕事の内、草退治に要する労力は大変なものです。俺が地方では五月初旬から、葉物野菜と合わせて、ナス・トマト・ピーマン・葱・ジャガイモ等の作付けと、休む暇もありません。しかし野菜は手を掛ければ掛ける程、良い成果が生まれま

す。野菜の生育中、雑草退治は怠ると、雑草の中に野菜があるのか?畑の中に雑草を作っているのか?との状態になります。

良く育った葉物野菜、大きな実と成ったナス等の初物を収穫した時の嬉しさは格別です。自前の野菜を妻が料理して美味しく頂くのは、正に百姓冥利に尽きます。

この様にして春物、夏物野菜を収穫、秋物野菜の作付けを終えると、暫くして冬に備えて秋物野菜の収穫です。ダイコン・カボチャ・ニンジン・カブ等根物野菜の貯蔵と野沢菜、大根等の漬物と、秋は特に忙しい季節です。

畑の「枯れ野菜の幹等のごったく」は集めて燃やします。また農協に行きもみ殻を頂き、冥加畑に撒くなどの作業もあります。十一月、畑全体を起こすと、玉ねぎの植え付けで私の農作業はほぼ終了です。(最近覚えた農作業に、来年の春一番に頂けるホーレン草の種蒔きがあります。)

を始めて以来、夫々の野菜の種蒔き・作付けの時期、その前に作る作付け床の工夫等、ノートに克明に記述しております。中にはトマト・ナス・ピーマンの植え付けの際、一晩中乾燥しておいたある物を苗床に入れると、実が大きくなるなどの工夫も覚えしました(秘密?)。忘れていました。十二月になると山田先生の裏山から落葉を頂き、畑に撒くのが、本当の百姓仕事の終りになります。

大雑把ですが以上が私の田舎暮らしの一周年です。これらの農作業の間に、こちらに来て教えて頂いた、入会したりして「詩吟・短歌・俳句それから、郷土史研究会での学習、月一回の里山ウォーキング等」を楽しむまた、春秋の山菜採り(コゴミ・ワラビ・竹の子・ノブキ・キノコ等)は私の最も楽しみとしている所です。(山菜採りに付いては、何かの機会に皆様にご紹介したいとおもっております。)

私は愚かなのでしようか? 作る野菜全てに言えることですが、どれも多く作り過ぎ、無駄にしております。しかし、これは多くの農家に言える事ではないでしょうか? 今日のは久しぶりの雨です。少々遅いですが、既に床作りして置いた畑に、来年の春一番に収穫するホーレン草の種を蒔く事にしましょう。取り止めのない田舎暮らしの一端をお話ししました。

皆様さようなら

はじめての

親睦旅行:

横沢出身 倉島 義明



一・十月二三日(日)

毎年恒例になっている秋季の親睦旅行だが、一度も参加したことがなかった。今年の総会で同級生の堀内君からいろいろと親睦旅行の話聞いた。総会でお会いする先輩諸氏の裏話や威勢のよい女性陣の事などを聞いて大変興味を覚え、参加してみようかという気になった。堀内君の他はあまり親しい人もいなかったせいもあり、いささか不安もあったが、そこはそれ、真田町という同郷の人達の集まりなので参加すれば何とかかなると思っただけ。結論から言えば、そんな心配は取り越し苦労で全くの杞憂だった。

ここ何年かは、JR大宮駅の西口が集合場所。はじめて参加する小生にとり、大宮駅は降りたこともなく一抹の不安が付きまとう。インターネットで検索した駅周辺の地図を

頼りにソニックビルを探す。歩き出してまもなく大きなビルの前に一団の人が集まっていた。すぐ親睦旅行の面々であることが判明。堀内君の顔も見え互いに手を挙げて合図しあう。皆さんに挨拶した後、程なくしてマイクロバスで出発。きつかり九時だ。

今年の旅行先は湯沢、三国峠温泉の御宿「本陣」とその周辺。バスは一六号線から関越を一路北に向けて快調に飛ばし始めた。朝方曇っていた空も次第に雲が切れあちこちに青空。

参加する皆さんの行いがよいのか天気も味方してくれたようだ。車内が暑くなり冷房をつけてもらう。あちこちで方言交じりの話題が飛び交い、懐かしさが込み上げてくる。袴を着ないで話せるこの気安さ、これこそ同郷の人達との旅行の楽しみでもあり醍醐味と納得する。関越の月夜野インターを下りて一七号線にはいる。殆どの人が見落としたのではと思うが、道路際に名胡桃城(なぐるみ城)の表示。真田氏が名胡桃城を支配していたころ城代の鈴木氏が北条方の計略で奪い取られた城だ。これが後に豊臣の北条征伐の口実になったのだ。本当は降りて観たかったが・・・

バスは次第に急な坂道を登っていく。しばらくして赤谷湖という湖に到着。近くに猿ヶ京温泉の文字。

赤谷湖は景勝地として名高いところとか。残念ながら水が少なく湖面は下がり周辺は岩肌が露出してゐる。また周囲の山並みも時期が悪かったせいか紅葉も今ひとつで、雨模様の暗さもあつたせいか寒々しい。

バスに戻って目的地湯沢に向かう。運転手さんから「もうすぐ」との話がある。ほぼ予定時刻に今夜の宿、「本陣」に到着。早速、担当の人から歴史ある「本陣」宿の説明と午後には予定しているドラゴンドラの話があつた。ドラゴンドラとは、日本最長の5.5Kmの距離で乗船時間は約25分の8人乗りゴンドラで最近まで世界最長の距離を誇っていたそうだ。

期待が膨らむ。昼食後部屋に荷物を置いて直ちにバスでドラゴンドラ観光へ向かう。

ドラゴンドラ・・・さすがにスゴイ!! ゴンドラの高さは、一〇〇m以上のところもあり下を見るとゾクゾクする。峠を何度か越え延々と続くケーブルとゴンドラの群、眼下や遠方に見える景色は言葉で言い表せないほど美しい。青々とした谷川の水、その両側に広がる色とりどりの紅葉、遠くの山並みと湖(二居湖というらしい)が見事に調和してなんとも表現しがたい景色だ。われを忘れて思わず「すごい」「すばらしい」を連発。ゴンドラの終点である山頂駅に到着したところには、周囲に霧が立ち込め次第に視界が悪く

なってきた。駅周辺には殆ど何もなく、近くの小高い丘を目指して歩き始める。しばらくして雨が降り出し、一部の人を残して途中で撤退。身体が冷えてきた。傍のレストラン、アールムで暖かい飲み物などを飲みながら皆さんと歓談。帰りの乗船時間まで1時間以上もあり、雨も時々強くなり時間つぶしに苦労する。帰りのゴンドラは、文字通り五里夢中の霧、霧、霧だ。ともあれ往きにすばらしい景色を堪能できたのは、幸運だった。

宿に帰ってからは、風呂に入ったり、TVを観たりして宴会までを過ごした。六時になっていよいよ待望の宴会。山口会長の挨拶と乾杯を皮切りにスタート。飲み放題をいこととアルコール類はもちろん、飲み物などいろいろ頼んで楽しいおしゃべり。目の前のお品書きにとらめっこしながら、料理を一つ一つ味わっていく。今日の心地よい疲れと直前に見てきた美しい景色が飲み物や食べ物に一層の美味しさをひきたてる。旅行に来て本当によかったと思える瞬間がここにある。

一時間ぐらいいしてから、恒例のカラオケが始まった。山口会長も何曲か歌われ、サービスに努められた。皆さん、なかなかの喉の持主だ。一曲終わるごとに万雷の拍手。小生も一曲歌わせてもらったがこれがカラオケの最後の曲となった。丁度終宴の八時になったのだ。残念!! 誰

からともなく「信濃の国」を歌おうということになり、アカペラでの全員合唱。真田町の会はこの歌がないとお開きにならず、この歌が似合いた。

まだ飲み足りない人、歌い足りない人も多く、部屋に戻って小宴会。ここでは武捨さん作成の歌謡曲集が大活躍。皆さん、思い思いに懐かしい曲や思い出の曲を歌い、周りの人がそれに合唱して一層盛り上がった。全員が飲み、歌い、笑い、語り合った思い出深い宴会だった。

二・十月二十四日(月)

翌朝は、昨夜の疲れと朝食の遅いこともあり皆さん、ゆっくりしたよう。小生の部屋でも朝風呂を浴びた後一時間以上も世相談義に明け暮れた。身の回りのことから天下国家の話まで次から次と話題の尽きることはなかった。ところで湯沢もこの不景気と例外ではなく、道路沿いの土産店は殆ど閉まっている。やむなく朝食後、出発の10時まで宿内にあるお土産店でめぼしい物がないか、あれこれ探し回る。

十時丁度に宿の人に見送られながら、マイクロバスで出発。周囲は濃霧で覆われ、かろうじてバスの方が見える程度。見覚えのある建物から昨日通った道を引き返していることが分かる。最初に立ち寄ったのは、道の駅。たくみの里だ。農産物や各種のみやげ物を販売してい

る。たくみの里は広いためか、貸し自転車もおいである。皆さん、山菜や漬物などいろいろ買い込んだようだ。三〇分程度の停車時間後再びバスで次の目的地に向かう。ドライブイン太助で停車したとき、一瞬晴れ間が見えたものの相変わらず不安定な天気だ。晴れることを期待してバスに揺られ到着したのがなめこセンターだ。昼食を摂るためである。朝食が遅かったせいとおなかはそのほど空いていない。ご飯(なめこ等きのこの入った酢飯?)を空の容器パックを準備してもらい持ち帰る人が続出。皆さん、「もったいない」運動を実践し、環境と美化に配慮。ノーベル平和賞受賞のマータイ女史の原点は、ここにあるのだ。

なめこセンターは、文字通り山菜、農産物のオンパレードだ。活動的な女性陣は、勢よくどんどん買っている。ウーン、たくましいなあと思わず声が出てしまいう。バスの中では、お腹もいっぱいになりお土産も買ったのでそろそろ眠くなってきた。でも今日のメインイベントである迦葉山弥勒寺の天狗のお面と美しい紅葉見物をしなくては、と気を取り直す。周りの山々は霧に閉ざされ全く見えない。わずかに道の両側にあるりんご園が見えるのみ。このまま迦葉山に行っても雨で足場も悪く見学は大変とのことで、弥勒寺行きは中止することに決定。一寸残念だが仕方ない。

これで予定のスケジュールは、すべて終了したので沼田インターから関越に入り帰途に着く。車内は相変わらず女性陣の元気が目立つ。大声で笑い、冗談を言い合い、和気藹々の雰囲気だ。バス旅行はこうでいるうちに大宮駅が近づいてきた。そのとき、ちよつとしたハプニング。トイレ休憩を申し出た勇氣ある男性(誰でしょう?)がいたのだ。誰からか「もうすぐだ、がまんしろ」との励ましとも忠告(?)とも取れる掛け声がかかる中、バスは途中のセブンイレブンでストップ。そんな言葉を尻目にご本人は、スタコラとコンビニに向かう。なんともほほ笑ましい風景だ。

その後十分ぐらいいで無事、大宮駅に到着。皆さん、三々五々家路に着いた。

はじめての親睦旅行、本当に楽しい二日間だった。皆さんとうまく溶け合うことが出来るかどうか一抹の不安があったものの、バスに乗ったらそんな不安は雲消霧散。バスの中はもちろん、宿でも互いに顔を見れば声を掛け合うようになっている。またバスでは往復とも相席だった武捨さんからいろいろ楽しいお話を伺い懐かしく故郷のことに思いをはせることが出来た。

わずか二日間の旅をいろいろ楽しい企画で思い出深いものとしていただいた幹事の堀内さんはじ

め、皆さんに感謝いたします。本当にありがとうございます。また元気で来年もお会いできることを楽しみに筆をおきます。

以上

故郷の仲間を

ふるす

旧職場へ誘う

萩出身 柳沢 實



私が能美防災株式会社を職場として、現役時代及びOB時代を含めれば略半世紀に及ぶ。

何故これ程長きに亘り親密な絆であり得たか、それは一に能美防災の社風、私にはこれ以外考えられない。古き良き時代、この国に存在した慣習、文化、能美防災にはこの様な思想が脈々と継承温存、社員の総てに温かいものが流れている。

今回私はふる里の仲間数名を伴い能美防災本社を表敬訪問、本社皆様方のご好意により、大変ご多忙の中を御面接を賜わり且つ、展示室の見学、部長、山本さんの解説付き

の御案内まで頂き心からの感謝を禁じ得ない。

故人も企業も、生き残りにこれ程厳しい時代、社員OBを含め、これ程温かく包み込んで呉れる企業が他に存在するであろうか：

点として生を成し、自己の努力で線を描き、更には面として自分の世界を広げる、これは個人でも企業でも同一と考える。

ふる里を愛し、職場を愛し、隣人を愛する、この様な人生をと願えども、現実には必ずしも意の如くならず、八十路も半ば、思う事は、思い出の山ほど積もった

能美防災株式会社

永久の繁栄をひたすら祈るのみ

部長 山本さんを囲んで



H23.6.29

方言とお国訛り

副会長 鈴木 邦子

(横尾出身)



初めて上京した頃ですが、いわゆる東京言葉に合わせようと会社などで会話する際には標準語に近づけようとしていたものです。ですが一度、実家に行きますと懐かしさと、又気の緩みもあり、田舎言葉で全く不自然を感じる事も無く会話していた、そんな自分を見ていた、子供達が「お母さんて器用なんだね、ばあちゃん家へ来るとすぐに田舎言葉になるんだね」なんて不思議がられたものでした。

既に故郷を離れてからの年月が遥かに永くなった訳ですが、生まれの時から慣れ親しんできた訛りはすっかり体に染み付いているのでしよう。

嘗て会社勤めをしていた頃ですが、来客である、とある会社の社長と会話をしていた時の事でした、「あんた長野の人かい？」とにこにこしながら仰られた。其の方は伊那

出身の方でしたが、長野独特のアクセント(訛り)で解ったよ、との事「やっぱり」とちよつと気恥ずかしさがありました。が、親近感を覚え嬉しく感じた事を思い出しました。

近頃では東京真田町の会に出ますと、誰とは無しに方言が飛び交い、えっ！そんな言葉もあったね等と既に忘れていた言葉もあったりで、笑い声がたえません。そんな訳で方言をもう一度思い起こして見ようと思いました。

長野と一口に言っても、北信、東信、中信、南信とでは、アクセントやニュアンス、又、語尾の違いがあったり、微妙に通じない言葉もあることでしょう。

近頃の若い方はすっかり都会化しており、ファッションにしても、言葉にしても、私達の若い頃とは大分違っていますので、多分、えっ！そんな言葉知らないよとおっしゃるかと思いますが？。

先ず思い出せる範囲の言葉をあ行から並べてみようかとおもいます。

あさつばら・あつくい(足のかかと)・おやげねえ・おぶう(背負う)・おつかねえ・いぼつる・うりもみ・おちよんき・おった(落ちた)・おどけた・おやす(終わる)・おっぼしよる(折る)・おいだれ・おれ・女しよう・男しよう・おざんざ(そうめん)・えんごう・おおけんにしろ

きびしよ(急須)・きなしに・く

るみ(足のくるぶし)・ぐるわ(廻り)・こうで(腫鞘炎)・ごーいれる・米のあら・こずくがある・きかねえ(ゆうことを聞かない)・かがつばしい・くたびれる・こわい(硬い)ずねえ・しゃらつつねえ・しゃがしゃがする、しこつてな、せつねえ・ずくなし・しなつこい(軟かい)・しみる(冷える)・ぞぜーる・しようしい・じようさねえ・そらつこと・しゃらつかまうな

てーげーにしろ・つぶあし・ちだらまつか・とんでいく(走って)・とびつくら・たたる(家が)・てつこもり・ちつとべえ・だれさー・だれどう(だれとだれ)・たまげる・たまげたなえ

のくてえ・のめし(怠け者)・のつける・のて(だめな人)・なから(だいたい)

ほとばす・ぶ(び)・しょつてー・ひつちやばく・び(ぶ)・ちやる・はしゃばしやる・ひとつきり・へら(舌)・へー(もう)・ふるしき(風呂敷)・べと(土)

めためた・みぐせえ・みつともねー・まていにする・まる(小便する)・まーずなえ・まつめる・もろこしよてている・よつびて(夜どおー辞書に載っています)・やくやく・やぶせつてー・やだだいや、又は、やだに・らちあかねー・らつちもねー・わにる、わんだれ、等

家族に関するものでは語尾に「やん」がつき、じいやん・ばあやん・とうやん・かあやん・にいやん・ね

えやん、等

その他丁寧な言葉では、そうでごわすなえ・おつかれでござわす・ごめんなすつて・おいでなすつて・おいでるか・い・おあがんすつて・よつておくんなすつて・わるかつた・いねえ・そうだいねえ・そうでござわすか、等

語尾に、「だ」・「や」・「ね」・「ず」がつくものもあります。

ここにあつただ・日曜だだ・いくだ・そうかや・あつたかや・そうだいね・わるかつた・いね・行かず・起きず・行かず・起きず・等、等又知らずに使っている言葉では雪が無つてきたでー・駅までとんでいった、意外なのが「いただきます」です。

以上ですがまだまだあると思います、また此の中でも東京、他の県でも通じる言葉もいくつかあります。方言の語源なども調べたら面白いかもしれません。

例えば(ずくなし)のずくは杖や柱のことであり、また人間の背骨を言うとの事です。秋田では、じくなしと言いますし、遠く沖縄でも、新潟でもつかわれます。

(くたびれる)は草臥れると書き、草が朽ちた状態をいい東京は勿論かなり多くの県で通じるらしいです。

(たまげる)は魂消ると書き、魂が(ゲル)消える、の意だとか、かなりの県で通じる言葉らしいです。頭に浮かんで来たままを書きまし

たが、いくつか思い出して頂けましたでしょうか？ やはり懐かしく、様々な思い出がよみがえつて来ました。方言大いに使いましょ。

いいもんだなえ

良き時代の思い出

理事 花岡 孝雄



(横尾出身)

「ダボス」に投稿を依頼され、さて何を書こうかと思案したけれど、「ダボスは、硬い文章が目につく。」との話を耳に挟んだので、四角四面の話は脇に置いて、小中学校の記憶を辿って見ることにした。

小生は、昭和20年9月23日に、旧長村横尾で生れた。丁度、終戦直後です。従つて、同級生は、戦中派と戦後派とが、入り混じったクラスであった。当然、小学生の子供には、何の事かは分かりません。還暦を過ぎて、生れ年の話題になると、その

境が大変微妙となるから、不思議である。ただ、同級生の数がダントツに少なく、所謂、団塊の世代のクラスに比べ、教室の中はゆとりがあり、友達同士で相撲が取れた程であった。

小学2・3年生の頃、米国の脱脂粉乳が給食に始まった。アルミのカップに注がれ、飲もうとした瞬間、匂いが鼻に付き、飲めずにそのまま午後の授業が始まった。その時、担任の先生から随分怒られ、無理矢理飲んだ苦い経験がある。

戦後の物の無い時代だった。友人のほとんどが、穴の空いた服を、母親が縫つて着たが、別段、悲しいとも、口惜しいとも思わない時代であった。

毎日、良く食べた「おかず」は、野沢菜であった。時期になると、何は無くとも野沢菜が食卓を飾った。(もつとも、肉や魚が食べられる時代ではなかった。)戦後、南瓜とか雑炊ばかり食べたお陰で、今では見るのもイヤと言う方が結構いる。どう言う訳か、あれ程食べたのに、野沢菜だけは今でも大好物である。

舌はそれるが、小生の女房殿は、やり信州は小川村の生れである。その実家には、今年米寿を迎えた老母が一人、子供や孫に食べさせたい一心で、足を引き摺りながら、野菜を作っている。当然、野沢菜も作ってくれるので、12月の初めに取りに行き、住まいの熊谷(猛暑で有名まで運んで来て、漬けている。

小生は、血圧が高いので、女房殿は、如何に減塩するか苦心している。

(男子たるもの、言葉では言われないけれど、この点は、結構感謝している。) こうして、毎年、野沢菜を漬けるのが、我家の冬の風物詩になっている。

次男のお嫁さんは、東京生れの東京育ちで、鎌など持ったことがない人が、野沢菜の話をすると、わざわざ小川村まで取りに行き、熊谷で漬けるのを手伝ってくれる。一度食べたら、野沢菜の味を忘れなくなる証拠である。

12月の中旬になると、漬け上つて来る。丁度、その時期は忘年会の真つ盛り。安い酒を飲んで酔っているより、家に帰って、漬けたてのサクサクした野沢菜で、白いご飯を食べる喜びは、言葉ではいい表わせない至福の時だ。この時は、より一層信州に生れた幸を、神に感謝する次第である。

小学2年生の頃の思い出として、小生にとって忘れられない、大失敗、大失態がある。何をしたかは口が裂けても言わない。今後、誰が私に質問しても答えません。地獄の閻魔大王に脅迫されても答えませんので、これを読まれた方は、質問しないで下さい。誰でも、人に言えないことの一つや二つあるものです。

当時は、いじめなど無い時代なので、その後、何事も無ったように登校出来た。担任の先生、同級生の皆様、本当に有難うございました。

真田中学校の思い出は、数多くあります。その中で、二点に絞って述べます。

その1は、バレーボールです。今でも同級会では、話題になります。当時、男子の人気クラブは野球でした。運動神経のあるA級の生徒は、野球部に入り大活躍していました。小生は、自他共に認める運動オンチの方でしたので、野球部に入れませんでした。入っても補欠チームの球拾いが良いところ。友人何人かと、真田中初めての男子バレーボール部を結成した。

バレーコートは、役場と神川の間にあり、放課後、着替えて練習をした。とにかく、メンバーが少なく、チーム編成に苦労した記憶がある。当然女子バレー部は、我々男子チームに比べ強いチームだった。バレーの監督は、男女チームを兼務していた。当然強い女子チームには、気合を入れて指導していたが、我々弱小の男子チームには、ほとんど指導もなく、勝手におまかせの状況だった。自分達で練習メニューを作って、非力ながら一致団結頑張った。お陰様で、この頃から自主独立の気概が芽えたのではないかと、振り返って見ると感謝です。

ある日、いつものように練習をしていた。今日は、サーブやスパイクも決まるし、絶対調だと思って気分良く練習していたら、「孝雄」・「孝雄」と小生を呼ぶ声が聞こえて来た。誰だろうと思って振り返って見たら、

役場の隣にあった、我家の畑からの声であった。家族がそこで、麦刈をしている最中であつた。「バレーなんぞしてないで、早く麦刈を手伝え」と怒鳴られた。仕方なくユニホームの姿で、畑に向い麦刈を手伝った。夕方には終り、バレーコートに戻ってみると、全員帰った後で、誰も居なかった。今では考えられない、ノンビリとした良き時代だった。夏休みに入り、今日はいよいよ東信大会の日だ。上田での大会に、意気揚々と出陣した。初戦は、佐久の中込中学と当たった。当然名前も知らない相手、これは楽勝と思って試合に臨んだ。

例の如く、監督先生は、強い女子チームと一緒に、我々男子チームには、俄か監督になった某先生(名譽のために名を伏せておく)が付いた。試合の成り行きは宜しくなく、劣勢であつた。そんな時に、こともあろうか某監督先生は、ルールを無視し、ペナルティを取られ、ミスミス相手に得点を与える始末、結果は3対0と1セットも取れず完敗してしまつた。ほろ苦い思い出であり、忘れられない中学時代の良き1コマでもあつた。

中学時代その2

この件については、ここに書いて良いのか大いに迷つた。遠い昔(約50年前)の話として、お許をお願いする。

時は昭和36年×月×日(月曜日)の朝、全校生徒が講堂に集まっ

て、朝礼が始まつた。まず、吹奏楽に合せて「美しきかな我が郷は…」と校歌を斉唱し、続いて校長先生のお話が始つたのである。や！なんとその時に、悪友3〜4人と、講堂の天井裏にいたのである。校長先生を見おろし、天井裏でドキドキハラハラしながら話を聞いていたのである。

少し時間を戻すと、講堂に舞台があり、その裏側に幅1メートル位の通路があつた。某君がその通路の天井の一部がはずれることを発見した。そこによじ登って、天井裏にたどり着いたのである。放課後、何回か天井裏に侵入して遊んでいた。誰か忘れたが、生徒全員が集る月曜日の朝礼の時に、天井裏に登ろうとの発案があつた。さすがにびびつたが、空勇気を出して、全員賛同した。朝礼の始まる十分位に前に、舞台裏の通路に集り、体育マツトを土台にし、小窓の枠に足を掛けて、天井に抜けた。埃まみれの梁に足をのせ、柱に手を掛け、音を出さないように落ちないように注意しながら天井の中心程にたどり着き、先程のような事態となつた。朝礼の終るのを見計って、天井から降りて、全生徒が教室に戻る列に混つて、何事もなく終了した。これを2回経験したのだが、発覚を恐れ、その後、中止と相成つたのである。もし、万が一にも間違つて天井を突き破つて落下したなら、大事件となつた。今思うと、背筋が寒くなる思いだ。義務教育と言えど退学

処分を受けるような行動だったに違いないと、大いに反省している。どうかこれを読まれた皆様、年嵩もいかないうちの悪戯だと思つて、寛容の心でお許し下さい。

小さい頃の思い出は、次から次へと出て来るのは、まさに年を取った証拠ではと思ひながら終らせて頂く。なんと言つても、真田町は、自然に恵まれた素晴らしい故郷であることは間違いない。真田町へ帰ると何かホッとして心洗われる。この美しい故郷が永遠に続いて欲しいと願っている。

楽しい家族旅行

顧問 三井 芳郎

(大庭在住)



私の家の床の間に掛軸がかかっています。それは父、七郎右エ門の彰功碑の拓本です。ずっと掛けてありましたが実物は見たことがありません。一度見たいと思つていましたがなかなか秋田県まで行けませんでした。今年こそは妻と行きたいと思ひ子どもに話したら私も私も

と子供たちと孫、合計十人で行くことになりました。親子と孫で行く旅行は考えただけでも楽しいものです。

父は秋田県に行き養蚕教師を約十年間やっていたのです。どうして父が行くことになったのでしょうか、それは秋田県から長野県に養蚕の指導員を世話してくれるように依頼があったのです。すぐに父は応募しました。すると養蚕教師のテストをするから来るようにと長野県知事から連絡がありました。その時、父は、県知事に当てて、「私は三吉米熊先生に指導を受けた者である、今さらテストを受ける必要はありません。」と直訴状を送つて秋田行きが決まったそうです。

三吉米熊先生はフランス、イタリア等で養蚕の勉強をして、上田の国立蚕糸専門学校に養蚕科を作つたり、又、小県郡立蚕業学校の初代校長を三十六年間していた有名な先生です。今も上田公園には銅像が建っています。その周りにはしだれ桑の木がたくさん植えてあります。

昨年八月、私たち親子と孫十人は二台の車に分乗して秋田に向かいました。夜通し走つて翌朝秋田県に着きました。ドライブインで朝食を済ませて石碑のある雄勝郡幡野村八幡様に向かいました。この住所は変更になっていて湯沢市となっていました。

しばらくして私達の車はこんもりとした神社の前に止まりました。

八幡様でした。私は胸がワクワクして石の鳥居をくぐつて、社殿に向かいました。そして右側に大きな石碑を見つけました。近ずいて見ると、一番上に、大きな字で「三井君彰功碑」と書いてあり、その下に小さな字で石碑いっばいに説明文が書かれていました。

石碑は大正七年九月建立となっていました。今から九十四年前です。石碑は村の人達によつてきれいに磨かれていました。私の想像では草むらにうずもれていると思ひ、鋸や鎌、草かきを持参しましたがその必要はありませんでした。

みんなで見ていましたら、遠くで神社を見張っていた人が二人来ました。どうしたのかと聞かれるので「私達はこの碑の三井七郎右エ門の子供と孫とひ孫です。長野県から来ました」と言うつとびっくりして様子を話してくれました。その人達の話によると一度台風で後にあつた大きな杉の木とともに石碑も倒れたようですがすぐ立て直したそうです。

当時、村長、組合長をしていたお宅も紹介してくれましたが、あいにく留守でした。

夜はこの辺で一番大きな温泉宿の「太郎兵衛」に一泊しました。私たち家族は大広間で盛大な宴会をしました。夕食終了後は広い舞台は借りきりです。全員で一人一芸の演芸会を楽しみました。私は小学校の二年生のときに演じた思ひ出の剣

舞の「川中島」をしました、子どもの時の事はいつまでも覚えていてびつくりしました。孫たちは、そこにあつたお面やかつらをつけ即劇を作り大騒ぎで演じたり、フラダンスなどで楽しませてくれました。皆お腹をかかえ思ひ切り笑いました。

私達が長野から来たことを知つた組合長の孫の佐藤さんから電話があり明日会いたいとのことで、翌日佐藤さんの家を訪問しました。佐藤さんの家は昔のままで、当時の事務所もあり、おばあさんも健在で、お茶を頂きながらの思ひ出話で花が咲きました。父はこの家で泊まりお世話になつて養蚕指導をしていたそうです。「お優しい方でしたが、お仕事は几帳面で厳しいお方でした」とおばあさんは当時の事を事細かに話して下さい、感動して聞き入り私は思わず涙ぐんでしまいました。皆さんも私達も夢のようだと話していました。

佐藤家は幡野村の地主で、父は佐藤さんの祖父にあたる長蔵さんの家に泊まりお世話になつていました。長蔵さんは、村長、産業組合長、雄勝郡養蚕同業組合長等の要職につかれています。この地の歴史書のかなかに次の様に書かれていました。

「佐藤長蔵さんが三井七郎右エ門を指導者として連れてきたのは大きな功績であつた。七郎右エ門は明治二年に長野県に生まれ、長野県蚕種検定員をした後、秋田県桑樹栽培(二ページ第一段目に続く)

第二四回定期総会・懇親会のご報告

理事 古市 礼子
(竹室出身)



総会の司会は、柴田小夜子 副会長です。
「信濃の国」の斉唱で始まりました。

5月22日、アルカディア市ヶ谷五階 穂高の間で第二四回定期総会と懇親会が開かれました。東日本大震災から、まだ2か月余り、不安な日々の中、会員50名、上田市から9名、東京上田会から1名のお客様に出席していただきました。ゲストの方々には、石黒 豊 副市長、南波清吾 市議会議員、下村栄 副議長、清水俊治議員、古市順子議員、佐藤公至議員、新井今朝信 真田地域自治センター次長兼地域振興課長、林秀夫 真田地域自治センター地域振興課地域政策係、片山久男 議会事務局長、東京上田会から森浩一会長の皆様です。

会場入り口には、武捨衛人さんが長年に亘って撮影した、皆さんのスナップ写真がプレゼントに置かれていました。

【山口元彦 会長挨拶要旨】
こんにちは、今日は多くの方々がおいでくださっております。ご多忙の中、ありがとうございます。

東日本大震災では、地震や津波で一万五千人以上が亡くなられ、未だに九千人近い行方不明者、さらに原子力発電所による被害が加わって一万人近くもの人々が避難生活を強いられていらつしやる。亡くなった方々のご冥福をお祈りし、避難生活をされている方々のために、一日も早い復興を願っております。

さて、昨年、会の継続と発展のために努力すると申しましたが、そのためにはさまざまな課題があります。

一つは、会をより楽しく有意義なものにしてゆくこと、二つ目は若手の会員を増やしてゆくこと。そして、故郷との交流を活発化してゆくこ



と。この三つと思います。

ふるさととの交流につきまして、ホームページやダボスでの発信に地元の方から反応がありました。フリーペーパーの「真田 活き活きふるさと通信」に、東京真田町の会の紹介が1月に掲載されました。さらに、その記事をご覧になった方から、行事参加のお誘いを受けました。

又、若手会員を増やす事ですが、真田中学校の卒業生の中に繋がりを広げ、その土壌を作りたい。その方面の活動に意欲をお持ちの方に新しく理事になって頂き、又、同窓生の会員の力をお借りし動き出したいと考えております。

【石黒 豊 上田市副市長 挨拶要旨】

3月一日の災害への、上田市での対応。災害が発生してすぐ、消防団員70人ほど派遣し、次に、ミルク百缶などの救援物資を届けました。

私も、被災から1か月位経った時に2回、現地に行きました。被災地を見るにつけ、一体これはどういう世の中なんだ!! 方々で、家がひ

っくり返ったり、車が家の上に在るんですね、物事の常態としてあるわけじゃないわけでして、大変な事だなあと思ったところでございます。何年かかるかわかりませんが、皆で、長い間支援をしながら、復興に向け議論したいと思っています。

さて、故郷真田でどんな事が行われたのか。

菅平地域の光ケーブルが、下から菅平まで繋がりました。又、長年の懸案事項だった菅平大橋。菅平ダム湖への急カーブを修正して架橋しました。そして、合併の大きな目標であった真田図書館は、本庁舎と併用する形で、昨年一月に竣工。活用して頂いていて、よかったなあと思っている所です。それから、傍陽小学校改築、耐震補強工事をしました。故郷に参りましたら図書館、あるいは傍陽小学校を是非ご覧頂きたいと思います。

【議事】

平成22年度会務報告、会計報告、監査報告、平成23年度事業計画、予算案、役員補充について報告があり、原案通



りに承認されました。

役員については、山口会長より、若手の会員募集のために「名補充させていたきたいと、横尾出身の花岡孝雄さんのご紹介がありました。

【懇親会】

懇親会の司会 飯島慶三郎副会長

〈歓迎の挨拶〉 小林孝雄 顧問

地震予知について日本の先駆者が、佐久間象山です。

信濃の国の五番に「象山佐久間先生も 皆此国の人にして 文武の誉たぐいなく」と歌われています。今年、生誕二百年の記念の年。

象山は、一八一一年に松代藩の藩主の長男として生まれたが、それは江戸後期の、国内動乱の時代。京都で尊皇派に54歳の若さで殺されました。彼は、30代から西洋の科学技術に関心を持って科学、医療を勉強した。ところが不幸にも、長野善光寺付近が壊滅した地震があった。さらに、安政の3大地震で関東が焼野原になった。象山はそれを見て、地震予知機をつくる。完全な実用化には至らなかったが、彼の地震予知に対する熱意は現在も受け継がれているのです。

〈祝辞〉 森 浩一東京上田会会長

上田市が震災の被災地に対応し、非常に広く考え活動をしている事を4月にお伺いし感銘を受け、又郷里に対して誇りに思った次第でございます。

そういう震災被害の状況の中でありますが、真田町の会と東京上田会が一緒にゴルフをやるという話になった所、震災が起き、残念ながら延期するという事になりました。真田町の会と上田会、先の方に目を転じ、足元を固めて、仲良く進めて参りたいと思っています。

会場のそこそこを少しウォッチングしますと・・・、ちよびつと深刻な個人的な相談事、真田の物産を東京の祭りで売りませんか？といった真田と東京を結ぶ前向きな話。又、会員の柳澤 實氏は、柏文化財ゼミの方々を信州、上田にご案内した時のお話と資料を見せてくださいました。隠し芸大会、輪踊りなど、和やかに真田町コトバがかわされておりました。

皆さん、次回の参加をお待ちしています。



各部の活動報告

☆ 親睦旅行

期日…23年10月23日～24日
 参加者…男九・女八・計一七人
 行程…1日目 大宮駅西口大宮ソニックビル パレスホテル1階入口前で送迎バスに乘車(九時)～関越道・川越IC～上里SA～月夜野IC～宿泊先「本陣」一二時着(昼食)～ドラゴンドラ(片道5、5kmのスリル満点のロープウェイ)ですばらしい紅葉を見物～「本陣帰着」(一六時)

2日目 「本陣」(二〇時)～匠の里で見物・買物～太助ドライブイン(買物)見学～なめこセンター(昼食)～関越道沼田IC～上里SA～川越IC～大宮駅西口(一四時)

担当理事 堀内 幸



《苗場山に勢揃いした皆さん》

☆ スポーツ

◎ ゴルフ同好会

春期ゴルフコンペは東日本大震災により中止となりました。

秋期は上田会と合同で十一月十五日に武蔵野ゴルフクラブで開催されました。(幹事…上田会)

出場者約三十名で東京真田町の会は七名参加でした。当会の入賞者は準優勝…堀内 福氏 五位…堀内 政氏でした。

上田会と合同開催でしたが、昔話や情報交換など、和気あいあいの内に無事終了しました。次回は茨城の名門、常陽カントリー倶楽部での開催を予定しております。大勢のの皆様の御



《お腹は満腹…ご機嫌な笑顔》

参加をお待ち申し上げております。(幹事担当:眞田会)
 担当理事 堀内 政、荻原啓治

◎ マレットゴルフ

春の大会は5月14日、8人の参加者を得ていつもの新座のマレ



《第一回合同コンペ出場者》



《当会の出場者》

ットゴルフ場で開催、優勝…布施京子さん、準優勝…岸俊子さん、三位…矢崎(男性)さんでした。
 秋の大会は11月3日、9人の参加を得て開催、優勝…鈴木邦子さん、準優勝…滝沢けさ子さん、三位…堀内寿美さんでした
 担当理事 荻原啓治



《5月14日の出場者》



《11月3日の出場者》

(二六ページ第四段目から続く)

教師として着任してきていた。大正四年に三ヶ村連合組合が設立された時に、長蔵さんの発案で組合教師としてまねいたものだが、設立当時は十七戸、生産高二千九百円、以来寝食を忘れ、親身になつての献身は、村民の尊敬を集め、その指導は桑苗養成、桑園増殖から蚕室指導、資材共同販売にまで及び、大正七年九月には組合員数、百三十二戸、生産高五万円の産業に育っている。当地区の養蚕振興に尽くした功績は実に大きく、八幡神社境内にその功をたたえ彰功碑が建立されている」と書かれていました。

子供たちや孫たちは昔の話をものめずらしく聞き入っていました。私達は佐藤家の庭で記念写真を撮り再び八幡神社の彰功碑を拝し帰途に着きました。

日本海沿岸の景色と珍味を味わいながら帰ろうと計画して走ったのですが、日がくれて真っ暗になつてしまいとても真田までは帰れません、どこかで泊まろうと思つて、走行してしましたら、大きなホテルを見つけました。二階に泊まり、朝目が覚めて窓を開けると目の前に日本海が広がっていました。子供や孫は大喜びで朝から海に入つて遊びました。こうして夕方には真田の家に無事に着きました。長年の夢が実現し、往復約千五百キロメートルあった秋田旅行は終了しました。親子孫一同での旅行は本当に楽しい

もので良き思い出になりました。



ゴルフ関連話題

理事 堀内 政

(横尾出身)



今年はずれもが忘れることが出来ない3月11日の東日本大震災がありました。

私はその日ゴルフプレイ中でした。(千葉CC川間コース)午後2時46分の地震によりゴルフは中止されました。

その時はまだ未曾有の災害になるとは思いませんでした。時間が経つにつれ、ニュースや新聞を見、実際に被災地を目にして、どうなるのか見通しが立たない不安な気持ちでいました。

そんな暗い世相に明るい話題がゴルフを通じて2つ程ありますので、私事の自慢話で恐縮に存じますがこの文面でご紹介させて頂きます。

一つ目は、三年程前にゴルフプレイと一緒にした縁で知り合い、月に一度位の割合でゴルフを楽しみ、同じ様な生い立ち、かつ年齢も一緒と云う事で言わば同じ時代に生き、戦い抜いた同志に近い形で意気投合

し、俳優であり(株)倉田プロモーション社長でもある倉田保昭氏と一昨秋、劇場用映画製作に参画しました。

製作した映画「レッド・ティアーズ(紅涙)」が倉田氏の過去の功績や人柄が評価され、第24回東京国際映画祭にノミネートされ、10月22日六本木ヒルズにてグリーンカーペットに関係者諸氏、出演した俳優さんと一緒に倉田氏のご好意で歩くことが出来て、この上無い経験と喜びでした。

今まで続けて来たゴルフが縁でこのような形になりました。

二つ目は、去る11月26日筑波カントリー倶楽部6番池越の147ヤードをワンバンドでホールインワン見事達成しました(2回目)。只今記念ボールを作成していますので、次回合同コンペ時に皆様に届けたいと思います。

2つともゴルフにまつわる明るい話題ではありますが、御紹介させて頂きました。

以上



会員の皆様の

近況報告抜粋

(敬称略・出身区・旧姓)

1 荒木廣之(下原)

出席出来なくてすみません。ご盛会を祈ります！。

2 飯嶋啓治(萩)

いつもごころづさまで。五月一日〜二〇日カテゴリーの検査がありますのですみません。皆様に宜しく。

3 柴田小夜子(菅平・市村)

いつもお世話様です。宜しくお願いいたします。

4 岩崎 弘(中原)

先約があり失礼します。ご盛会をお祈りしています。

5 上原辰夫(中横道)

御無沙汰して居ります。体調が悪く出席できませんので、皆様方によりしくお伝え下さい。会長始め役員の皆様には大変ご苦勞様です。

6 清水民子(曲尾・上原)

毎年お世話になっております。昨年、4月30日に主人に先立たれました。早いもので、主人の一周忌を無事にすませることが出来ました。淋しさは、まだまだありますが、皆様にお目にかかることができれば、また元気がとり戻せるのではないかと思います。遅い連絡で申し訳ありませんが、

出席させて頂きたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

7 内海辰三(大庭)

若い人達が元氣を出して大いに人生を語り国家、世界を論ずることとは非常に意義あることと思ひます。小生高齢にして体調不良により残念ながら欠席致します。

8 内海宏光(現在宮の前在住)

傍陽地区にもようやく遅い春が訪れました。梅の花が終り、傍陽小学校の桜の花がぼちぼち咲き始めました。農家では稲の苗床作りを始めています。我が家でも今日キャベツ、レタス、サニーレタスの苗に霜除けプラスチックカバーをつけて植えました。ジャガイモは先週種を付けて植えましたが、遅霜が心配です。今、家で食べている野菜は冬菜、野沢菜の春芽を茹でておとし、胡桃和えや胡麻和えにして美味しく頂いております。

9 大久保慶次郎(渋沢)

長男のところに転居しました。前年脚の手術をしました。リハビリ中です。

10 大庭今朝女(大日向・大久保)

平成二十一年度で退会の御連絡を致しておりますのでよろしくお願ひ致します。

11 荻原啓治(四日市)

私の音楽仲間とシャンソン、カントーネ、ナポリターナ、アルゼンチンタンゴ等のレッスンや発表会等を都内、長野(上田、小

諸、松本、軽井沢)で行っています。気軽に参加をお待ちしています。

12 荻原 學(真田)

傘寿を迎えられます。年齢相応な健康であり、四季折々故郷を思い浮べ懐かしみます。

13 岩井泰子(中原・荻原)

役員の皆様いつも大変お世話になります。先の東日本大震災には本当に心が痛みます。日々、こうして毎日無時平穩に暮らせる事がどんなに幸せな事かと実感しております。先日「いとこ会」があり帰省しました。上田の新幹線ホームで会長の山口さんにバツタリお会いしたのは本当に偶然でした。盛会をお祈り致します。

14 清水甫子(田中・金子)

元氣であります。東京真田町の会に出席させて頂き皆様のお元氣な方達とお逢い出来る事を楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。幹事の皆様大変ご苦勞様です。

15 大久保あき子(菅平・川上)

姪の結婚式のため欠席させて頂きます。

16 真柴邦子(横尾・神田)

ご連絡ありがとうございます。都合が悪く欠席させて頂きます。真田町の会のご発展、皆様の「ご多幸」をお祈り申し上げます。

17 神田幸雄(横尾)

東日本大震災、早期の復旧、復興を！今の自分に出来る事を行

い、これから先自分に出来るようなことは何か。支援を継続したいと考えております。「日本はひとつ、がんばれ日本」

18 神林勝夫(竹室)

申し訳ありません。今期で退会します。

19 中村洋子(田中・木下)

役員の皆様のお蔭で、大震災の後にもかかわらず、会を開いていただけてほんとうにうれしくおもいます。

よろしくお願ひいたします。

20 笹沢ケサム(横沢・久保)

体調不良のため欠席致します。役員の皆様いつもお世話様です。しらかば通信は非常になつかしく拝見致しております。今後とも宜しくお願ひ致します。

21 久保新一(角間)

高齢化が進み、運営も大変だと思ひますが、こういう形の会は、高度成長時代の名残りで、これからの時代には難しいと感じます。山口会長の下で、会の在り方を再検討してみてもどうでしょうか。

22 久保宗一(横沢)

加齢のためか体調悪く欠席させて頂いたきます。ご盛会を祈っております。

23 倉島今朝(二角間)

役員の皆様には大変お世話になります。今回は町内イベントと重なり、出席出来ず大変残念です。

24 倉島忠好(上原)

長い間、大変お世話様になりま

した。一月四日に亡くなり、本原の地に埋葬し、御夫婦安らかにと祈っております。(義妹様信)

25 倉持信郎(入軽井沢・小林) 役員の皆様いつも御案内ありがとうございます。通常の生活には体調も大丈夫ですが、東京での総会ともなりますと、人混みとか乗り物内での緊張とかが大変に苦手です。そんな事情で欠席させていただきます。

26 小林勝美(入軽井沢) 都合により出席できません。お集まりの皆様によりしくお伝え下さい。

27 高柳キヌ(横沢・栗林) 腰痛ですが、今年を最後として頑張ってお席させていただきました。調子が悪くなったときはごめんなさい。

28 小林重利(入軽井沢) 東京真田町の会総会のご案内がありがとうございました。ハガキが同封されておりませんでしたので、本状を持って欠席のご連絡とさせていただきます。ご盛会をお祈り申し上げます。

29 福島愛子(中組・斎藤) いつもお世話様です。最近はいくつかの皆様にパソコンサポート、病院通いと多忙な毎日を過ごしております。あいにく22日は孫の守の為、欠席させていただきます。皆様に宜しくお伝え下さい。

30 坂口英一(真田) 当日、他の用が決まっております。誠に申し訳ありませんが欠席させていただきます。

31 小林公江(大日向・塩沢) この度、地震の被害にあわれた方々お見舞い申し上げます。まだ余震が続き落着けない日々ですね。当日は所用のため欠席致します。会の益々の発展を願っております。

32 香坂つや子(大日向・塩沢) 5月より退会させていただきます。長い間いろいろお世話様になりました。

33 清水清晴(中横道) お陰様で元気です。年齢の関係で遠出はやめています。悪しからず。皆様方によりしく。

34 清水征夫(中原) 役員の皆様「苦労様です。」日本ダボス「楽しみにしております。都合により出席できませんが、みなさまにより四苦お伝え下さい。

35 杉崎壽三男(菅平) 毎年お世話様になります。この時期どうしても日程が合わず欠席となります。皆様方益々お元気に活動ください。

36 鈴木郁夫(横尾) 今年も新作「魔法のお茶会」を通販で発表しました。

37 鈴木邦子(横尾)

東北大震災の後も殆んど毎日のように大小の、外出するのも少しだけ怖い思いがあり、身構えて出て行く今日この頃です。被災地の人々を思うにつけ、何とも云い様のない気持ちになります。

38 関 弘吉(中組) 東京真田町の会・総会のご案内がありがとうございました。今回は残念ながら出席できません。秋の親睦旅行会には参加したいと思っております。会員の皆様のご多幸を願っています。

39 鈴木民子(竹室・高寺) お返事が遅れ申し訳ございません。昨年は用事と重なり欠席でしたが、今年は出席させていただきます。お世話になります。よろしくお願い致します。

40 滝沢 勲(真田) 山口会長様 会長就任おめでとう。

41 武田 守央(真田) 毎日元気で過ごしております。役員の皆様には会の運営に尽力下さり誠に有難うございます。二四回の総会、おたがい様老齢化しておりますが、かいの益々の御発展を願っております。

42 田中恒夫(横尾) 皆様「苦労様です。お陰様で元気にして居ますが都合が悪く欠席しますので、皆様によりしくお伝え下さい。

43 高田竹子(横尾・塚田) 脱退させていただきます。

44 桜井和子(下横道・中沢) 昨年の旅行の折お世話になり、ありがとうございます。湯田中良い思い出になりました。

45 中村欣勇(下横道) 何時も役員の皆様方には御苦労の事と思います。深く感謝申し上げます。本年も総会が近ずき一年の歳月の早さを感じさせます。国難の年となつて居りますが、会員の皆様方と御元気で会い出来る事を楽しみにしております。

46 山本道子(大庭・成沢) 体調が思わしくないので欠席します。しらかば通信、いつも楽しく読ませて頂いております。

47 井出道子(大畑・南條) 役員の皆様いつもありがとうございます。盛会をお祈りします。

48 野村勝太郎(大日向) 申し訳ありません。親子大会に当り今年も出席できません。皆様に宜しく。

49 山崎高子(上横道・羽毛田) いつもお世話様です。私は体調が良くなくて一度も総会に参加しておりませんので、今回をもちまして真田町の会を脱会させていただきます。今迄大変お

世話様になりありがとうございました。

50 平田金子(岡保・橋詰)

上田市議会議員の三井和哉様のふる里のお話を楽しみにしていましたが、青少年協の会議と重なってしまい残念ですが欠席させていただきます。盛会をお祈りいたします。

51 橋詰吉万雄(中組)

いつもお世話様です。都合悪く欠席ですが、去る4月17日、18日と傍陽小学校の同級会で菅平高原温泉に行き、帰りに傍陽小学校に立ち寄りしましたが、校舎新築中でした。桜の古木に花が咲き始め懐かしい思いをしました。

52 野村富子(萩・橋詰)

先約がありまして参加できません。宜しく願います。

53 花岡孝雄(横尾)

幹事さんご苦勞様です。

大震災の光景を見ますと、自然災害の恐ろしさを認識しました。わが真田町は大きな災害もなく、自然に恵まれたいい故郷だと、改めて実感した次第です。

54 半田喜章(中横道)

今年も都合悪く出席できません。ご盛会をお祈りいたします。

55 半田幸一(田中)

幹事の皆様ご苦勞様です。体調は相変わらずですが、今回は欠席させて頂きたく、宜しく願います。

します。ご盛会を祈念いたします。乱筆で失礼致します。

56 滝沢富士子(下横道・半田)

身近な方達、友人がだんだん少なくなる年令になりましたが、真田町の会はよいです。若くて元気です。ご発展とご活躍をお祈りいたします。私も日々元気です。

57 橋本美津子(穴沢・半田)

大変お世話さまになりました。ご連絡頂きましたが、諸事情のため、脱会させて頂きたく存じます。ありがとございました。

58 古市礼子(竹室)

住所変更しました。よろしくお願い致します。

59 勝田昭子(田中・堀内)

役員皆さんご苦勞様です。欠席に○をする理由は残念ですが、21日、22日と出かける予定になっていました。本当にごめんなさい。返信がなくて申し訳ありません。

60 上ノ山勝信(三島平・堀内)

幹事さんご苦勞様です。都合悪く申し訳ありません。

61 井上かつよ(田中・堀内)

役員の皆様ご苦勞様です。すっかり春らしい季節になりました。今回もお世話になります。どうぞ宜しく願います。

62 木南和世(中横道・堀内)

現在病になり3年になりました。良くなるには時間がかかります。

出席は無理です。よろしく願います。

63 久野けさ志(中横道・堀内)

何時もお世話様になります。私も足の具合が良くないので、リハビリに通っておりますので、楽しみにしておりますが残念です。欠席致します。皆様によろしく。

64 依田澄子(下横道・堀内)

長い間ありがとございました。今迄一度も会に出席させて頂きませんでした。通信を読ませて頂き、色々皆様の活躍を楽しみにしていましたが、年を重ね益々出席が出来ませんのでこのあたりで会を休ませていただきたく思います。今迄ありがとございました。

65 堀内 福(下横道)

元気です！。ゴルフ楽しんでます。役員の皆様ご苦勞さんです。

66 堀内照美(上横道)

いつもお世話様です。地元の行事と重なり欠席させて頂きます。盛会を祈念申し上げます。

67 堀内寿美(上横道)

ハガキ遅くなつてしまいません。田舎育ちの皆さんと方言で気軽に話ができるのは、楽しいですね。宜しく願います。

68 堀内幹本(上横道)

幹事の方々ご苦勞様です。この度も参加出来ず申し訳ありません。小生は毎日元気がんばって

居ります。

69 小林正子(下横道・堀内)

お元気でいらつしゃいますか？お世話になります。皆様にお会い出来るのを楽しみにしています。桃井俊江(旧姓牧内)さんをお誘いしたのですが、その頃上田に帰省なさる予定があり出席できないとのこと。来年は是非とおっしゃっていました。

70 小山末江(萩・牧内)

役員の皆様には大変お世話になります。今年もほかの行事と重なり欠席致します。ご盛会をお祈りしております。

71 牧内 操(萩)

ご盛会を祈ります。

72 岩崎みち子(菅平・正木)

娘が出産のために帰っており、5月22日が予定日のため、今回は欠席させて頂きます。申し訳ありません。

73 松尾一夫(真田)

今回を持って退会させて頂きたく。短い期間ですがありがとうございました。会の発展をお祈りしております。

74 若林芳子(真田・松木)

主人の介護のため退会させて頂きます。ありがとございました。

75 丸山廣義(曲尾)

返信がおそくなりまして申し訳ありません。本年も他に行事が

あり、皆様にお逢い出来ず残念に思います。『盛会をお祈りしますと共に皆様の健康をお祈り申し上げます。』

76 三井芳郎(大庭)

役員のみなさん御苦労様です。当日、早目に行きます。いつもお世話さまになります。

77 宮崎十人重(菅平)

いつもお世話様です。体調が悪い為、欠席します。よろしく願い致します。

78 宮下毅士(真田)

東日本大震災と福島原発事故により、大変な状態ですが、我が家は被害が少なく済みました。原発も地震も予断は許されませんが、元気で生活しています。

79 宮本 優(大日向)

今回も欠席ですみません。

80 武捨衛人(中組)

お手配ご苦労様です。大勢の参加者が有ると良いですね、好天気を祈ります。

81 森本幹生(入軽井沢)

皆々様の健康と、盛会であります様、心から願っています。

82 八木五郎(中横道)

3月に亡くなった次姉の茨城への納骨が震災で延期、日時がはつきりせずで今頃の返事でゴメンなさい。震災、原発の不安を吹き飛ばす東京真田町の会となるといいなあ……！

83 佐藤ムネ子(真田・矢島)

平成22年9月に福島県いわき市から東京へ10年ぶりに引っ越してきました。皆様にお逢い出来ることを楽しみに出席します。

84 柳沢郁政(戸沢)

このところ、被災住宅の相談の仕事に出ています。休日にはソフトテニスを元気で楽しんでいきます。

85 松井志づ江(萩・柳沢)

残念ですが予定が入って居り出席できません。皆様によりよくお伝え下さいませ。

86 柳沢俊美(戸沢)

都合が悪く欠席します。皆様によりよくお伝え下さいませ。

87 佐藤昌江(萩・柳沢)

大変遅くなつて本当に申し訳ありません。もう何日も声も出ず床に伏しています。長い風でまだはつきりしません。そのため申し訳ありませんが欠席させて頂きます。

88 柳澤 實(萩)

今回の震災により総会中止の危惧を抱き居りましたところ、案内状が届き、心のわだかまりも総て融解、当日を心待ち、楽しみに……。

89 深町共栄(田中)

ここ3年間、法等等が重なり、総会に出席できませんでしたが、今回は楽しみにしております。

90 椎名己津男(横沢・山口)

いつもお世話になりありがとうございます。昨年は大変楽しく過ごさせていただき、なつかしい方々にお逢いし話も弾みました。今年は残念ですが町の行事が重なつてしまい参加できません。役員の皆様、そして会員の皆様方の健康を心よりお祈り申し上げます。

91 山口義弘(真田)

残念、組合総会の為出席できず、来年に期待。

92 安田美智子(入軽井沢・山宮)

平成二十三年三月一日一四時、東日本大震災では怖いおもいを致しました。成田も震度6弱、私が結婚したのは松代地震、昭和40年でした。元気にしてます。

93 浅水みち子(入軽井沢・山宮)

会長さんはじめ役員の方いつもありがとうございます。大きな地震でとてもこわいおもいをしましたが、被災された方、本当にお気の毒です。心よりお見舞い申し上げます。

94 大橋けさ子(菅平・山本)

お世話になります。皆様にお逢いする日を楽しみにしております。

95 横沢義雄(大畑)

幸村を「大河ドラマ」に「実現出

来る様運動をしてゆきたいと思っています。

96 滝沢けさ子(赤井・若林)

いつもお世話に成ります。

……投稿……寄稿のお願い……

日本ダボス 25 号・しらかば通信 16 号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思い出・近況など、日本ダボスは 2,400 字以内、しらかば通信は 800 字以内で、ご連絡は次の担当理事までお願いします。

広報担当理事 武捨 衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m-musya@nifty.com

～会員消息～ (敬称略)

＜入会＞

荻原 淑子 〒300-0834 茨城県土浦市小和田東 2-5-6 (傍陽・穴沢)

＜住所変更＞

古市 礼子 〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-22-18 アビターレメジロ 1B (本原・竹室)

若林 幸一郎 〒233-0006 神奈川県横浜市港南区芹が谷 5-2-19 (長・大日向)

宮島 光男 〒244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 778-9-709 (長・横尾)

大久保 慶次郎 〒312-0852 茨城県水戸市笠原町 600-100 (長・渋沢)

＜退会＞

長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

五十嵐 やす江 中野 恵美子 大坪 はる子 岡村 貞江 佐藤 久司

柳澤 保治 大庭 今朝女 神林 勝夫 香坂 つや子 小林 光子

関 辰雄 高田 竹子 橋本 美津子 松尾 一夫 山崎 高子

依田 澄子 若林 芳子

＜逝去＞

会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

堀井 けさ子 倉 嶋 忠好

＜転居先不明＞

小林 晋 柳原 芙志江

次回総会の予告

平成24年の総会、懇親会は5月20日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお願い申し上げます。詳しくは4月に発行の「しらかば通信」第16号でお知らせいたします。

年会費納入のお願い

平成23年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振り込み料は無料です。会の資金繰りが苦しく、役員の寄付で急場をしのいでおります。宜しくご協力をお願い致します。

広告御礼

日本ダボス第24号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさと上田市(真田町)との交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会も、二二年余りの歴史を刻み先輩役員のご努力、皆様のご協力、そして旧真田町並びに新生上田市当局のご支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございます。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加が何にもまして重要と思われまふ。皆様の友人、知人の中に東京真田町の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非ご一報頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

連絡先 山口 元彦

〒184-0012 東京都小金井市中町二一九一六

☎ 03-5215-1511 FAX 番号 03-5215-1512

☎ 042-383-6555

ふるさとのコーナー“生のふるさと便り”をお楽しみください

インターネットの検索窓に「上田市役所 ホーム」と入力して検索ボタンをクリックし、検索結果の「上田市役所-ホーム」の項をクリックして上田市役所のホームページを開き、トップページ左側最上段の総合案内項で「広報」をクリックし、開いた画面で中央の地域自治センターだより「さなだ」の項に進むと、平成20年からのバックナンバーを見ることができます。クリックで開き紙面をポイントしてダブルクリックすると、画面いっぱいの拡大で見ることができます。次頁は最新の11月16日号の一部です。お暇な折に訪れてみてください。ここでは《トップページ》のほか、《カメラニュース(2頁)》《真田地域協議会だより(3頁)》《公民館だより(4頁)》と盛り沢山の、ふるさとのホットニュースにリアルタイムで接することができます。

地域自治センターだより

編集 上田市真田地域自治センター 地域協賛課 〒384-2202 上田市真田町長7178-1
有線2015 TEL0268-72-2200(代表) FAX0268-72-4140

さなだ

No.23

平成23年

2011 11.16

〇〇〇 S A N A D A
〇〇〇 真田氏発祥の郷

真田地域公共交通利用促進協議会が 設立されました



全国学校音楽コンクール長野県大会で 長小学校が銀賞受賞

8月21日に第78回NHK全国学校音楽コンクール長野県大会が岡谷市カノラホールで行われ、長小学校6年1組が銀賞を受賞しました。

この大会の予選となる東信ブロック大会には東信地区から26校が参加し、金賞受賞校のうち6校が県大会へと進み、上田市からは長小学校を含む4校が県大会進出を果たしました。

他の学校が35人に厳選した合唱班で参加するなか、長小学校では6年1組が学級単位で出場。23人のクラスメートで歌える喜びを胸に丸となって大会に取り組み、全県下から集まった30校のなかで好成績を収めました。



A 真田三代発祥の里コース (約22km)

●日時: 10月29日土

午前9時スタート

●コース順路

真田地域自治センター→御屋敷公園→真田氏本城跡→
長谷寺→山家神社→古城緑地公園→一杯清水→旧松代
街道→陽泰寺→千古の滝→真田地域自治センター

●参加費: 一般/1,500円(当日2,000円)

小中学生/500円(当日700円)

●その他のコース 10/29 B 城下町・蚕都めぐりコース(約13km)
10/30 C 信州の鎌倉・湯けむりめぐりコース(約20km)
10/30 D 上田城・城下町寺社コース(約11km)
10/29-30(2日間共通) E 真田幸村コース(約4km)

四 産業観光課 観光商工係 有線2042 Tel.72-2204

さなだの郷野沢菜まつり2011

11月26日(土) 27日(日)

【収穫体験会場】9:00~15:30

●竹室活性化組合会場

(本原バイパス沿い)

●下郷沢活性化組合会場

(下郷沢区民広場前)

●豚汁等のサービス

【直売会場】8:00~16:00

●新鮮市真田

(ゆきむら夢工房隣り)

〈販売単位〉

●自分で収穫1kg...50円

直売1束(4kg)...300円

四 産業観光課 有線2024 Tel.72-4330

暖かい汁物の
サービスや
新鮮野菜・果物の
販売もあります



11月

20日 チェロと華の響き
ル ポワゾン演奏会
(真田中央公民館)

20日 第2回さなだスポーツクラブ杯
ふわっとテニス交流大会

26日~27日 さなだの郷野沢菜まつり

27日 スポーツフェスティバル2011
(さなだスポーツクラブ)

12月

10日 菅平高原スキー場開き
(菅平高原国際リゾートセンター)

1月

8日 平成24年上田市成人式

11月26日
イベント
下郷沢大会

やわらかく、あまい
野沢菜をどうぞ。



平成22年度 決算報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
通常年会費収入	400,000	278,000	総会費	650,000	536,874
総会懇親会費収入	600,000	450,000	会報発行費	550,000	581,070
上田市補助金	300,000	300,000	事業費	200,000	80,000
広告収入	350,000	275,000	事務通信費	150,000	74,690
寄付金等収入	50,000	45,000	印刷費	50,000	2,430
利息等雑収入	8,304	0	会議費	100,000	64,932
			渉外費	100,000	10,000
			交通費	100,000	0
			雑費・手数料	50,000	64,356
			予備	50,000	0
当期収入合計	1,708,304	1,348,000	当期支出合計	2,000,000	1,414,352
前年繰越額	291,696	291,696	次期繰越額		225,344
合計	2,000,000	1,639,696	合計	2,000,000	1,639,696

上記の通り収支決算報告いたします。平成23年3月31日 会計 金子 誠 ㊟
 上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監事 深町 共栄 ㊟
 監事 堀内 幸 ㊟

平成23年度事業計画

- ① 第24回総会及び懇親会の開催（平成23年5月22日）
- ② 会報「日本ダボス」第24号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑥ 上田市との交流促進のため、ふるさと訪問、ふるさと特産品の宅配協力、各種文化・スポーツ行事の実施と参加（真田の郷行列ウォーキング等）
- ⑦ その他

平成23年度収支予算

平成23年4月1日～平成24年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常年会費収入	350,000	総会懇親会費	650,000
総会懇親会費収入	550,000	会報発行費	600,000
上田市補助金	300,000	事業費	100,000
広告収入	300,000	事務通信費	80,000
寄付金等収入	50,000	印刷費	10,000
利息等雑収入	60	会議費	80,000
		渉外費	50,000
		交通費	100,000
		雑費・手数料	80,000
前年度繰越金	225,344	予備費	25,404
収入合計	1,775,404	支出合計	1,775,404

「東京真田町の会役員名簿」

(平成23年12月1日現在)

職名	氏名
会長	山口元彦
副会長	飯島慶三郎 柴田小夜子 鈴木邦子
理事	監事 深町共栄 堀内 幸
	事務局長 (鈴木副会長兼務)
	会計理事 金子 誠
	荻原啓治 花岡孝雄 古市 礼子 堀内寿美 堀内 政 武捨衛人
顧問	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎 塩沢和政 中島正江

ふるさとで聴いたあんな歌こんな唄

・・・昭和21・2年・・・

悲しき竹笛 近江俊郎/奈良光枝

ひとり都の たそがれに
思い哀しく 笛を吹く
ああ細くはかなき 竹笛なれど
こめし願いを 君しるや

そぞろ歩きに 戯れに
買って分ちし 思い出よ
ああ花の笑顔も やさしく浮かび
我を泣かせる 歌のふし

リンゴの唄 かえり船 悲しき竹笛
啼く小鳩よ 夜霧のブルース
港が見える丘 夜のプラットホーム
長崎エレジー 夢淡き東京
とんがり帽子 懐かしのブルース
誰か夢なき 泪の乾杯 山小屋の灯
東京の花売り娘

・・・昭和23・4年・・・

限界ブルース 田端義夫

情け知らずと 嘲笑えばわらえ
人に見せない 男の涙
どうせ俺らは 玄界灘の
波に浮き寝の かめめ鳥

紅い灯かげの グラスに浮かぶ
影がせつない 夜更けのキャバレ－
酔うて唄えど 晴れない胸は
銅鑼よ お前が 知るばかり

異国の丘 流れの旅路 三百六十五夜
湯の町エレジー 憧れのハワイ航路
君待てども 薔薇を召しませ
銀座カンカン娘 青い山脈
月よりの使者 麗人草の歌 長崎の鐘
かりそめの恋 悲しき口笛

・・・昭和25・6年・・・

あざみの歌 伊藤久男

1 山には山の 愁いあり
海には海の 悲しみや
ましてこころの 花ぞのに
咲きしあざみの 花ならば

2 高嶺の百合の それよりも
秘めたる夢を ひとすじに
くれない燃ゆる その姿
あざみに深き わが想い

東京キッド 白い花の咲く頃
ダンスパーティの夜 山のかなた
越後獅子の唄 私は街の子
江の島エレジー 東京の椿姫
連絡船の唄 上海帰りのリル
ひばりの花売娘 高原の駅よさようなら
ニコライの鐘 あの丘越えて
牧場の花嫁さん さすらいの旅路

・・・昭和27・8年・・・

山のけむり 伊藤久男

山の煙の ほのぼのと
たゆとう森よ あの道よ
幾年消えて ながれゆく
想い出の ああ 夢のひとすじ
遠くしずかに ゆれている

谷の眞清水 汲みお合うて
ほほえみ交わし 摘んだ花
山鳩の声 聴きながら
行きすりの ああ 君とともに
下りた峠の はろけさよ

赤いランプの終列車 リンゴ追分
あこがれの郵便馬車 丘は花盛り
落葉しぐれ 街のサンドイッチマン
あゝモンテンパの夜は更けて
泪の夜汽車 さすらいの船歌 この世の花
待ちましよう 花の三度笠 雨降る街角
別れの磯千鳥 菰藻の歌

・・・昭和29・30年・・・

小島通いの郵便船 青木光一

海をへだてた 二つのこころ
思い通わす たより船
いとしあの娘も みかんの木かげ
待っているだろ
小島通いの 小島通いの郵便船

ロマンチックな 灯台岬
いつか曲がって もう見えぬ
やがてあの娘の 憧れのせて
帰ってくるだろ
小島通いの 小島通いの郵便船

哀愁日記 あなたと共に ひばりのマドロスさん
あの日の船はもう来ない
高原列車は行く おんな船頭唄
次男坊嬢 この世の花 高原の宿
親子舟唄 別れの本杉
かえりの港 月がとって青いから
あの娘が泣いてる波止場

・・・昭和31・2年・・・

好きだった 鶴田浩二

好きだった 好きだった
嘘じゃなかった 好きだった
こんなひとと あの時に
言えはよかった
胸にすがって 泣きじゃくる
肩のふるえを ぬくもりを
忘れられずに いるのなら

好きだった 好きだった
俺は死ぬ程 好きだった
言っちゃならない さよならを
言ったあの日よ
笑うつもりが 笑えずに
顔をそむけた 悲しみに
今も捨てずに いるくせに

哀愁の町に霧が降る 哀愁列車 東京の人
東京の人さようなら 夜霧の第二国道
俺はお前に弱いんだ ここに幸あり 早く帰っ
てコ リンゴ村から 柿の木坂の家 チャンチ
キおけさ 東京のバスガール 星空に両手を
港町十三番地 有楽町で逢いましょう

・・・昭和33・4年・・・

お別れ公衆電話 松山恵子

1 なにも言わずに このままそっと
汽車に乗ろうと 思ったものを
駅の喫茶の 公衆電話
いつかかけていた 馬鹿ね馬鹿ね
私の未練 さようなら さようなら
お別れ電話の せつないことは

3 先があるのよ あなたの身には
こんな女は 忘れるものよ
ベルが鳴る鳴る プラットホーム
ここが切れ目時 出はいけない
私の涙 さようなら さようなら
お別れ電話の 最後のことは

からたち日記 古城 花笠道中
羽田発七時五十分 泣かないで
南国土佐を後にして 東京ナイトクラブ
再会

・・・昭和35・6年・・・

北上夜曲 マヒナ/多摩

1 匂い優しい 白百合の
濡れているよな あの瞳
想い出すのは 想い出すのは
北上河原の 月の夜

2 宵の灯 灯すころ
心ほのかな 初恋を
想い出すのは 想い出すのは
北上河原の せせらぎよ

4 僕は生きるぞ 生きるんだ
君の面影 胸に秘め
想い出すのは 想い出すのは
北上河原の 初恋よ

誰よりも君を愛す 再会 潮来花嫁さん
夜霧の空の終着港 湖 愁 潮来笠
月の法善寺横丁 銀座の恋の物語
はたちの詩集 上を向いて歩こう

・・・昭和37・8年・・・

いつでも夢を 橋/吉永

1 星よりひそかに 雨よりやさしく
あの娘は何時も歌っている
声が聞こえる 淋しい胸に
涙に濡れた子の胸に
言っているいる お持ちなさいな
いつでも夢を いつでも夢を
星よりひそかに 雨よりやさしくあの娘
は何時も歌っている

2 歩いて歩いて 悲しい夜更けも
あの娘の声は流れ来る
すすり泣いてる この顔上げて
きいてる歌の懐かしさ
言っているいる お持ちなさいな
いつでも夢を いつでも夢を
歩いて歩いて 悲しい夜更けも
あの娘の声は流れ来る

赤いハシカチ 江梨子 寒い朝 下町の太陽
高校三年生 島のブルース 長崎の女
美しい十代 こんにちは赤ちゃん
東京五輪音頭 夕陽の丘

・・・昭和39・40年・・・

東京の灯よいつまでも 新川二郎

- 1 雨の外苑 夜霧の日比谷
今もこの目に やさしく浮かぶ
君はどうして いるだろうか
あゝ東京の灯よ いつまでも
- 2 すぐに忘れる 昨日もあろう
あすを夢見る 昨日もあろう
若い心の アルバムに
あゝ東京の灯よ いつまでも
- 3 花の唇 涙の笑顔
淡い別れに ことさら泣けた
いとし羽田の あのロビー
あゝ東京の灯よ いつまでも

ああ上野駅 霧の中の少女 青春の城下町
東京の椿姫 アンコ椿は恋の花 お座敷小唄
十七才は一度だけ 学生時代 他人船
涙の連絡船 わが愛を星に祈りて

・・・昭和41・2年・・・

小樽の人よ 東京ロマンチカ

- 1 逢いたい気持ちか ままならぬ
北国の街は つめたく遠い
粉雪まいちる 小樽の駅に
ああ一人残して 来たけれど
忘れはしない 愛する人よ
- 3 小樽は寒かる 東京も
こんなにしはれる 星空だから
語り明かした 吹雪の夜を
ああ思い出してる 僕だから
必ず行くよ 待てておくれ
待てておくれ

夜霧の慕情 夜霧よ今夜もありがとう
逢いたくて逢いたくて
恍惚のブルース ラブユー東京
柳ヶ瀬ブルース こまっちゃう
真赤な太陽 ブルーシャドウ さよなら列車
小指の想い出 お嫁においで

・・・昭和43・4年・・・

君がすべてさ 千 昌夫

- 1 これきり逢えない 別れじゃないよ
死にたいなんて なぜ云うの
遠く離れて 暮らしても
ただひとすじに 愛しているよ
君がすべてさ 君がすべてさ
- 2 心の小函に しまっておくよ
やさしい君の 面影を
頬を濡らして 光ってる
その涙さえ 愛しているよ
君がすべてさ 君がすべてさ

霧にむせぶ夜 星影のワルツ
港町・涙町・別れ町 長崎ブルース
君は心の妻だから 好きになった人
抱擁 ブルーライト・ヨコハマ 今日でお別れ
池袋の夜 ゆうべの秘密 恋の季節
港町ブルース 長崎は今日も雨だった

・・・昭和45・6年・・・

夢は夜ひらく 園 まり

- 1 雨が降るから 逢えないの
来ないあなたは 野暮な人
ぬれてみたいわ 二人なら
夢は夜ひらく
- 2 うぶな前が 可愛いと
云ったあなたは 憎い人
いっそ散りたい 夜の花
夢は夜ひらく
- 6 恋して愛して 泣きました
そんな昔も ありました
思い出しては また涙
夢は夜ひらく 夢は夜ひらく

わたしの城下町 よこはま・たそがれ
おふくろさん また逢う日まで
知床旅情

・・・昭和47・8年・・・

瀬戸の花嫁 小柳ルミ子

- 1 瀬戸は日暮れて 夕波小波
あなたの島へ お嫁にゆくのだ
若いと誰もが 心配するけれど
愛があるから だいたいよふなの
だんだん 煙さよならするのよ
幼い弟 行くと泣いた
男だったら 泣いたりせずに
父さん母さん だいにしえてね
- 2 岬まわるの 小さな船が
生まれた島が 遠くになるわ
入り江の向うで 見送る人たちに
別れ告げたら 涙が出たわ
島から島へと 渡ってゆくよ
あなたとこれから 生きてく私
瀬戸は夕焼け 明日も晴れる
二人の門出 祝っているわ

恋の町札幌 せんせい おまえに
恋なみだ ぐちなしの花 四季の歌
なみだの操 ふるさと 夜 空

・・・昭和49・50年～・・・

二人でお酒を 梓みちよ

- 1 うらみとこなしで 別れましようね
さうりつに すべて流して
心配しないで 一人っぴり
子供の頃かまは 慣れたのよ
それでも酒には 淋しくなつたら
人でお酒を 飲みましようね
飲みましようね
- 2 いたわりあつても 別れましようね
うなつたのも お互いのせい
あなたと私が 似たもの同士
欠点はか急が 淋しくなつたら
人でお酒を 飲みましようね
飲みましようね

北の宿から さだめ川
千曲川 昔の名前で出ています
襟裳岬 愛ひとすじ うそ
シクラメンの香り 年下の男の子

編集後記

『日本ダボス第二四号』を本日お届け致します。
最初に貴重な原稿をお寄せいただいた皆様から
御礼を申し上げます。

私が日本ダボスの編集を担当して早くも一〇年が過
ぎました。将に光陰矢の如しで御座います。

昨秋から後期高齢者の仲間入りを果たしております
が、子供の頃に野球やバレーでしごかれた効果か、足
腰の衰えを嘆く同級生が増える中で土曜毎に10〜1
5キロのウォーキングを楽しみ、進学塾の講師や、小
一の子供の見守り隊で若者と交流して若さを保ち、友
人の勧めで始めた「玄米雑穀十菊芋」食で一〇年若
返ったと言われて、張り切っております。(それにし
ても、どなたかもの忘れ対策の秘法を御存じありませ
んでしょうか：トホホ)

昨年のこの欄で触れた婚活の女子児童が5月頃から
新一年生の世話をしながら一緒に帰る様になり、チャ
ンスがあると私にまわりつくので文字通りの「今カ
ノ」に元氣と若さを注入してもらっています。

3月11日の東日本大震災は、被災地の東北地方に
大被害を齎しましたが、原子力発電所の被災がその規
模を何十倍にも拡大しており、コントロール技術の出
来ていない科学技術の乱用に重大な警告をしていると
考える必要があります。

末筆で恐縮致しますが、上田市議会事務局長の片山
様並びに真田地域自治センター、地域振興課の林様、
産業観光課の木嶋様、お忙しい時期に格別なご協力を
頂き大変有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。
原稿集めに協力頂いた理事の皆さん、編集スタッ
フの皆さん大変お世話になりました。(武捨記)

祝 東京真田町の会 —会報24号—

ROGOVSKI

ロシア料理 渋谷ロゴスキー

URL : <http://www.rogovski.co.jp/>
E-mail : rogovski@rogovski.co.jp

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

ロシア料理

渋谷ロゴスキー

東京都渋谷区道玄坂1-2-2
渋谷東急プラザ9階

TEL 03(3463)3665

FAX 03(3461)5084

営業時間 11:00 ~ 22:00 年中無休

ロゴスキー 世田谷区深沢5-5-17
深沢カフェ TEL 03(5706)5922



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater

"発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく"

●Mr. Children

●BUMP OF CHICKEN

●ゆず

●ケツメイシ

●RAG FAIR

●melody.

株式会社トイズファクトリー 代表取締役 井出 孝光

SUN あなたの街のハウジングパートナー STATE

代表取締役

株式会社 サンステイト 最上忠

東京都知事(6)第58002 社団法人 不動産歩容協会会員

社団法人 全日本不動産協会会員

〒155-0093 東京都世田谷区上野毛2-7-18

Tel 03-5706-5454 Fax 03-5706-5453

Email: sunstate@coffee.ocn.ne.jp

㊦ 東京真田町の会 —会報24号—

東京海上日動火災保険株式会社 代理店
東京海上日動あんしん生命保険株式会社 代理店
堀内インシュアランスサービス

代 表 **堀 内 寅 次**

〒337-0032 さいたま市見沼区東新井 939-64

☎ 048-685-5282 FAX 048-687-9122

携帯 090-1120-4058 http://www.tokio_nichido.com

貿易物流研究所所長
東京真田町の会

顧 問 **小 林 孝 雄**

(曲尾出身)

〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5

☎ 045-843-8041

齋藤指圧治療院

齋 藤 勇 一

(真田出身)

〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10

シャポール東松原 301 号

☎ 03-3322-6622

東京真田町の会

顧 問 **塩 沢 和 政**

(大日向出身)

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田 1074-37

☎ 047-450-3348

東京真田町の会

顧 問 **清 水 清 晴**

(中横道出身)

〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2

☎・FAX 03-3489-0763

オートマタ(西洋からくり)製造・販売
いくさ工房

鈴 木 郁 夫(横尾出身)

〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷 4-13-7

☎・FAX: 048-864-0295, mail: s-ikusa@dab.hi-ho.ne.jp

<http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ikusa/>

新鮮青果.com

代表者 **中 島 偉 充**

Yorimitsu Nakajima

〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E

☎・FAX 03-3704-7875

E-mail: info@shinsenseika.com

URL: <http://www.shinsenseika.com>

東京真田町の会

顧 問 **中 島 正 江**

(戸沢出身)

〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E

☎ 03-3702-1385

東京真田町の会

顧 問 **三 井 芳 郎**

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510

☎ 0268-73-2616

国画水墨院常任理事

(元)日本選抜美術家協会常任理事審査員

国画院会員、師範

森 本 幹 生

(入軽井沢出身)

〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町 1-6-8

☎ 044-733-0267

御殿場市・小山町

長野県人会

顧 問 **柳 沢 喜三郎**

(萩出身)

〒412-0045 静岡県御殿場市川島田 748-2

☎ 0550-83-0081

御芳志御礼

会の活動資金として次の役員の皆様から
¥65,000(¥5,000/人)の御芳志を
頂戴いたしました。(敬称略)

山口元彦・飯島慶三郎・柴田小夜子

鈴木邦子・深町共栄・堀内 幸・金子 誠

荻原啓治・花岡孝雄・古市礼子

堀内寿美・堀内 政・武捨衛人

祝 東京真田町の会 —会報24号—

公益社団法人 日本証券アナリスト協会 主催

個人投資家向け会社説明会を 定期的に開催しています！

個人投資家向け会社説明会を定期的に開催しています。上場企業の経営陣から事業内容や経営方針、業績見通し等を直接聞くことができる絶好の機会です。是非ご参加ください。

1. 開催日程

	開催予定日程	会社数
第23回	平成24年1月：8日間 12日(木), 13日(金), 17日(火), 18日(水), 19日(木), 24日(火) 25日(水), 26日(木)	24社
第24回	平成24年2月：9日間 7日(火), 8日(水), 9日(木), 14日(火), 15日(水), 16日(木) 20日(月), 21日(火), 22日(水)	27社
第25回	平成24年3月：9日間 6日(火), 7日(水), 8日(木), 12日(月), 13日(火), 14日(水) 15日(木), 21日(水), 22日(木)	27社

2. 会場

当協会第1セミナールーム
(東京証券取引所ビル6F)

3. 参加募集人員

先着200名(参加費無料)

4. 開催時間帯

12:30、13:35、14:40 から
各50分間(1日3社開催)

※申込方法等の詳細は各回開催日の1ヶ月前頃に
当協会ホームページ (<http://www.saa.or.jp>) に
掲載いたします。



お問い合わせ先



公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1 (東京証券取引所ビル5階)

TEL: 03-3666-1632 FAX: 03-3666-6610

E-mail: i-kaisai@saa.or.jp

ホームページ: <http://www.saa.or.jp>

本年新設の「個人賛助会員」：入会のお勧め！

★充実した会員サービス

入会金：なし、年会費：18,000円(満65歳以上は12,000円)

- ①会社説明会や工場見学に無料で参加
- ②講演会・セミナーへの参加が会員並価格
- ③機関誌「証券アナリストジャーナル」の毎月送付
- ④会社説明会・講演会・セミナー要旨の無料閲覧その他

★申込方法と詳細は協会ホームページをご覧ください。

(<http://www.saa.or.jp/member/pdf/kojinsanjo.pdf>)

—お問い合わせ先

会員担当：03-3666-1411



ドラゴンドラの絶景
11ページに関連記事



内海宏光さんの見事な西瓜 プロです
すね! 10ページに関連記事



親睦旅行のスナップです
11ページに関連記事



マレット大会の一齣 20ページに関連記事

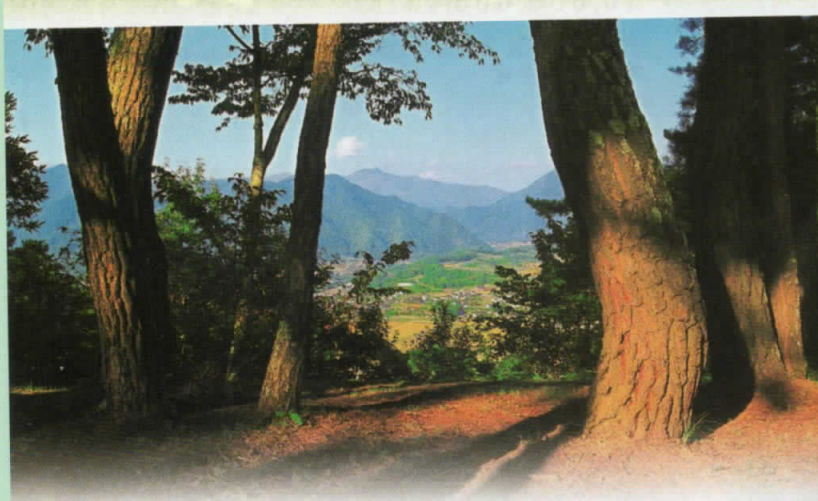


21ページに関連記事



21ページに関連記事

ふるさとのビューポイント②





株式会社 真田不動産

株式会社真田不動産は創業25年、東京都内を中心に独自のネットワークによる不動産物件の買い付け及び販売、不動産競売による入札(仕入、販売)業務を展開し、「中古住宅再生事業」を主たる業務としております。さらに自社所有物件、IMPERIAL(インペリアル)/壱~五番館は斬新で人気の全65室を所有しております。



本社(インペリアル壱番館・式番館)

会社概要	
商号	株式会社 真田不動産
設立	昭和63年9月28日
所在地	〒120-0005 株式会社 真田不動産
登録番号	東京都知事(1)第87786号
電話	03-3620-2511
FAX	03-3620-2744
ホームページ	http://www.sanada-fudosan.com/
代表者	取締役社長 堀内 政
事業内容	不動産の売買並びに収益物件の賃貸・管理(自社所有)
資本金	10,000,000円
取引金融機関	三井住友銀行、城北信用金庫、茨城銀行、 滝野川信用金庫



インペリアル壱番館/屋上庭園

プロフィール



インペリアル壱番館/屋上グリーン



真田/勝どきビルを望む

当社、代表取締役 堀内 政は生まれ故郷(長野県上田市真田町)信濃路を後に単身上京、紳士服販売(和光)として独立を果たし、その後、縁あり不動産業に参入しました。(沿革参照)

株式会社真田不動産の社名は、**六連銭**の家紋で戦国の世に於いて、**智謀**に優れ、又、**武功**に長けた**謀将**として名を馳せた**真田幸村**(信繁)の発祥地(上田市真田町)が同郷と云う事からの由来です。

営業方針

“小さくてもキラリと光る”営業指針を目指し、**バランスシート**(貸借対照表)を常に考慮の上、その時代の流れと不動産市況を柔軟に捉えながら、不動産競売(特別売却)のニッチ的要素を軸に、東京23区全域を網羅し、且つ、案件毎に**即断・即決**で対応しています。

営業販路は、業者販売とエンドユーザー向けと、各々半分位の割合で、フットワークよく精力的に活動しております。また、自社所有の収益物件を2~3期ごとに取得しており、**賃貸収入で企業収支**の安定化を計り営業展開を遂行しております。



真田家伝来甲冑/当社所蔵

日本ダボス 平成23年12月23日発行
発行 東京真田町の会 会長 山口 元彦

〒184-0012 東京都小金井市中町2-19-6 TEL 03-5215-1511

FAX 03-5215-1512

編集委員 武捨 衛人 古市 礼子
印刷 上田市・精巧堂アオヤギ印刷